

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	英語で読む文芸A						
担当教員	多賀谷 真吾						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	英米文化圏の文芸作品を読む。						
授業の概要	英語で書かれた詩作品や劇作品を英語の原文で読み、あわせて適切な日本語翻訳とは何かということも考察する。						
到達目標	この授業を受けることで、英語の原文で文芸作品を読む力がつき、また翻訳された日本語ではわからない原文ならではの微妙な意味を理解することができる。						
授業計画	第01回 イントロダクション 第02回 文芸作品読解演習(01) テーマ：躍動する詩：リズム、韻、音(1) 音読鑑賞編 第03回 文芸作品読解演習(02) テーマ：躍動する詩：リズム、韻、音(2) 意味解釈編 第04回 文芸作品読解演習(03) テーマ：カルペ・ディエムの詩(1) 音読鑑賞編 第05回 文芸作品読解演習(04) テーマ：カルペ・ディエムの詩(2) 意味解釈編 第06回 文芸作品読解演習(05) テーマ：故郷を懐かしむ詩(1) 音読鑑賞編 第07回 文芸作品読解演習(06) テーマ：故郷を懐かしむ詩(2) 意味解釈編 第08回 質疑応答と復習 第09回 文芸作品読解演習(07) テーマ：書を捨てて、野に出でよ(1) 音読鑑賞編 第10回 文芸作品読解演習(08) テーマ：書を捨てて、野に出でよ(2) 意味解釈編 第11回 文芸作品読解演習(09) テーマ：ことばから見た詩の歴史(前編)(1) 音読鑑賞編 第12回 文芸作品読解演習(10) テーマ：ことばから見た詩の歴史(前編)(2) 意味解釈編 第13回 文芸作品読解演習(11) テーマ：ことばから見た詩の歴史(後編)(1) 音読鑑賞編 第14回 文芸作品読解演習(12) テーマ：ことばから見た詩の歴史(後編)(2) 意味解釈編 第15回 質疑応答と復習						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：プリントの文芸作品の語彙、文法をチェックし、和訳してくること。 授業後学習：プリントの文芸作品部分を音読してくること。						
授業方法	演習方式						
評価基準と評価方法	レポート80%、発表点20%						
教科書	プリントを配布、使用します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	英語で読む文芸B						
担当教員	多賀谷 真吾						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	英米文化圏の文芸作品を読む。						
授業の概要	英語で書かれた詩作品や劇作品を英語の原文で読み、あわせて適切な日本語翻訳とは何かということも考察する。						
到達目標	この授業を受けることで、英語の原文で文芸作品を読む力がつき、また翻訳された日本語ではわからない原文ならではの微妙な意味を理解することができる。						
授業計画	第01回 イントロダクション 第02回 文芸作品読解演習（01） テーマ：ソネットの詩（1）音読鑑賞編 第03回 文芸作品読解演習（02） テーマ：ソネットの詩（2）意味解釈編 第04回 文芸作品読解演習（03） テーマ：シェークスピアの詩劇（1）音読鑑賞編 第05回 文芸作品読解演習（04） テーマ：シェークスピアの詩劇（2）意味解釈編 第06回 文芸作品読解演習（05） テーマ：詩と映画（前編）（1）音読鑑賞編 第07回 文芸作品読解演習（06） テーマ：詩と映画（前編）（2）意味解釈編 第08回 質疑応答と復習 第09回 文芸作品読解演習（07） テーマ：詩と映画（後編）（1）音読鑑賞編 第10回 文芸作品読解演習（08） テーマ：詩と映画（後編）（2）意味解釈編 第11回 文芸作品読解演習（09） テーマ：現代詩を音楽から（1）音読鑑賞編 第12回 文芸作品読解演習（10） テーマ：現代詩を音楽から（2）意味解釈編 第13回 文芸作品読解演習（11） テーマ：俳句と haiku（1）音読鑑賞編 第14回 文芸作品読解演習（12） テーマ：俳句と haiku（2）意味解釈編 第15回 質疑応答と復習						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：プリントの文芸作品の語彙、文法をチェックし、和訳してくること。 授業後学習：プリントの文芸作品部分を音読してくること。						
授業方法	演習方式						
評価基準と評価方法	レポート80％、発表点20％						
教科書	プリントを配布、使用します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	音楽の基礎						
担当教員	木本 雅子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	読譜、音楽理論、音楽史を学び、様々な楽曲に触れることによってクラシック音楽の理解を深める。						
授業の概要	・音楽作品を鑑賞、或いは演奏するに際し、正しく理解し表現する為に必要な楽典、音楽史、ソルフェージュについて講義と実技を交えながら進めていく。 ・音楽史を学ぶ中で様々な楽曲に触れ、音楽の持つ喜びを知ると共に音楽表現の可能性を研究する。 ・アンサンブル曲を学び、アンサンブル能力を養う。						
到達目標	音楽史を学ぶことによって音楽の文化的歴史的背景を理解し、各時代の音楽様式を把握する。 音楽と他の分野の芸術との関係性を知る。 基礎的な音楽理論の知識を身につける。 アンサンブル曲の素晴らしさやアンサンブルの楽しさに気づく。						
授業計画	第1回 古代の音楽 古代ギリシアの音楽と理論 第2回 中世の音楽① モノフォニー 第3回 中世の音楽② グレゴリオ聖歌 第4回 ルネサンスの音楽① ポリフォニー 第5回 ルネサンスの音楽② 宗教改革と音楽 第6回 バロックの音楽① モノディー 第7回 バロックの音楽② バッハ、ヘンデル 第8回 まとめと中間試験 第9回 古典派の音楽① ホモフォニー 第10回 古典派の音楽② モーツァルト、ベートーヴェン 第11回 ロマン派の音楽① フランス革命と音楽 第12回 ロマン派の音楽② リート、オペラ 第13回 近・現代の音楽 絵画と音楽 第14回 日本における西洋音楽の流れ 滝廉太郎、山田耕作、中田喜直、團伊久磨、三善晃、武満徹 その他の作曲家 第15回 まとめと期末試験 ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で扱った内容の復習と次回の授業に向けて指定した課題曲等の予習						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点(授業態度、授業への積極性など)と中間・期末試験によって評価する。(平常点50%、試験50%の予定)試験以外にもレポートを課す予定。 実技を伴う授業であるので、欠席は練習回数の減数となる。故に遅刻と欠席は減点対象となる。						
教科書	『はじめての音楽史 増補改訂版—古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』 著者 久保田慶一、ほか 音楽之友社 ISBN978-4-276-11016-8 上記の他、資料、楽譜を配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎演習／文章表現A						
担当教員	西川 純司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	アカデミックスキルを身につける						
授業の概要	大学での学習に必要な基礎的な技能や能力を身につけることを目指す。情報の収集・整理から文章表現、口頭発表に至るまでを実践的に学ぶ。						
到達目標	文章表現や口頭発表を実際に試み、表現することの楽しさを味わいながら、基礎的な表現法を身につける。						
授業計画	1 オリエンテーションとキャンパス探索 2 大学での学び方 3 松蔭manabaの使い方 4 情報収集の基礎①：図書館オリエンテーション 5 情報収集の基礎②：文献・資料の探し方 6 情報収集の基礎③：本の読み方 7 情報を整理する 8 文章表現の基礎①：文末の統一 9 文章表現の基礎②：話し言葉と書き言葉 10 レポートの作成①：準備 11 レポートの作成②：作成 12 レポートの作成③：完成 13 プレゼンテーションの実践①：準備（1） 14 プレゼンテーションの実践②：準備（2） 15 プレゼンテーションの実践③：発表						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポート（20％）、プレゼンテーション（20％）、平常点（60％）						
教科書	必要に応じて資料やプリントを配布する。						
参考書	佐藤望編、『アカデミック・スキルズ 第2版』、慶應義塾大学出版会株式会社						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読A						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む						
授業の概要	紀元前8世紀に成ったとされ、西洋文学史のAでありZである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。						
到達目標	1 常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。 2 読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。						
授業計画	第1回 『オデュッセイア』概説(1)―神話的背景、映画ビデオ 第2回 『オデュッセイア』概説(2)―文学史的背景、映画ビデオ 第3回 第九歌「キュクロプスの話」 第4回 第十歌「魔女キルケーの話」 第5回 第一歌「神々の会議」 第6回 第二歌「テレマコスの旅立ち」 第7回 第五歌「魔女カリュプソの島」 第8回 第六歌「少女ナウシカー」 第9回 第七・八歌「パイエケス人の王宮」 第10回 第十一歌「冥府行」 第11回 第十二歌「セイレーン、スキュラ、カリュブディス」 第12回 レポートの課題と書き方 第13回 オデュッセウスと女たち 第14回 冒険ヒーローとしてのオデュッセウス 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストと一緒に読んでゆく（声に出して輪読する）。漢字の読み取りテストも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点40%、期末レポート60%で評価する。						
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321025-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	基礎講読B						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	『オデュッセイア』を読む						
授業の概要	紀元前8世紀に成ったとされ、西洋文学史のAでありZである『オデュッセイア』を松平千秋の散文訳で講読する。						
到達目標	1 常用漢字の枠を超えた漢字や熟語、慣用句など日本語の知識を拡げて、端正でリズム感豊かな日本語の文章を楽しめるようになる。 2 読んで考え、考えて読むというクリティカルな読書の技法を身につける。						
授業計画	第1回 第十三歌「イタケへの帰還」 第2回 第十四歌「豚飼エウマイオス」 第3回 第十五歌「テレマコスの帰還」 第4回 第十六歌「父子の再会、討伐計画」 第5回 第十七歌「父子の帰郷と求婚者たち」 第6回 第十八歌「乞食のオデュッセウス」 第7回 第十九歌「ペネロペイアとの対話」 第8回 第二十歌「討伐前夜」 第9回 第二十一・二歌「弓競技と求婚者誅殺」 第10回 求婚者たちの罪とゼウスの正義 第11回 第二十三歌「夫婦の再会」 第12回 認知のドラマと三つの印、謎のペネロペイア、レポートの課題と書き方 第13回 映画『キャストアウェイ』と『オデュッセイア』 第14回 映画『かくも長き不在』と『オデュッセイア』 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業の前に、知らない漢字や語彙を広辞苑などの大辞典で調べて、自分でテキストを読み、授業後に読み返すという作業が授業参加の前提である。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら、テキストと一緒に読んでゆく。漢字の読み取りテストも行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、授業態度、漢字テストなどの平常点40%、期末レポート60%で評価する。						
教科書	ホメロス『オデュッセイア上』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321024-7 ホメロス『オデュッセイア下』（岩波文庫）、松平千秋訳、岩波書店 ISBN4-00-321025-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学A						
担当教員	長谷川 眞						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本考古学を学ぶ～考古学による原始日本列島史～						
授業の概要	物質文化を対象とする考古学的方法（編年論・形式論。分布論）を学びます。最近の考古学研究により解明された日本列島の原始社会の歴史を、各時代の主要テーマに即し、旧石器時代から弥生時代までたどります。講義と演習と現地研修により、遺跡と遺物の実際に触れながら、日本考古学を学びます。						
到達目標	歴史研究の方法論の一つ、考古学的方法を学びます。人間活動が展開された場所（遺跡）の地形、地理的要因を理解し、人と土地との相関関係を環境要因も加えて分析し、歴史を考える視点を養い、また、地図から地形を読み解き、資料の観察力を高め、ものから技術の進歩と精神性、人間の交流を学びます。考古資料を通して社会の歴史的变化を理解することも学び、学芸員としての思考法を身につけることを目指します。						
授業計画	第1回 考古学とは何か～考古学入門～ 第2回 考古遺物で語る日本史 第3回 考古学の方法 第4回 自然科学と考古学 第5回 旧石器時代の生活～人類の誕生と自然環境～ 第6回 縄文時代の住居と集落 第7回 縄文人の生活～自然環境と生業～ 第8回 考古資料の展示法～博物館施設実習～ 第9回 縄文人と弥生人 第10回 弥生時代の生産と生活 第11回 青銅器と祭祀 第12回 弥生時代の戦争と魏志倭人伝 第13回 弥生時代集落遺跡現地実習 第14回 発掘調査の歴史と実際～考古学と埋蔵文化財行政～ 第15回 総括 原始社会の日本を振り返って～縄文と弥生の文化比較～						
授業外における学習（準備学習の内容）	休日には、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学してください。史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史地理を考える習慣をつけてください。						
授業方法	講義及び演習と現地見学						
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%						
教科書	プリント配布						
参考書	『日本の考古 ガイドブック』、改訂版、東京国立博物館、東京国立博物館、2004年 『考古学と歴史』、第1版、白石太一郎、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-23768-3 『考古学—その方法と現状—』、第1版、泉拓良・上原真人、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-30913-7						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	考古学B						
担当教員	長谷川 眞						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本考古学を学ぶ～考古学による日本列島史・古代から近代まで～						
授業の概要	日本考古学各論のうち、主に古墳時代以降の歴史時代の考古学を学びます。最近の考古学研究により解明された日本列島の歴史を、各時代の主要テーマに即し、また、神戸が日本全体の歴史に関与した地域史的なテーマも取り上げます。講義と現地研修と演習により、遺跡と遺物の実際に触れながら日本考古学を学びます。						
到達目標	歴史研究の方法論の一つ、考古学的方法を学びます。遺跡、遺物の物質文化から各時代の人間活動と人間の技術、思考法を探る考古学的方法を学びます。型式分類が編年や文化論に有効な考古学的方法であることを理解し、考古資料を用いて日本歴史を構成する方法についても学び、学芸員として必要な知識や思考法を身につけることを目指します。						
授業計画	第1回 考古学とその方法 第2回 考古遺物でたどる日本史 第3回 原始時代の暮らしとまつり～旧石器・縄文・弥生時代～ 第4回 古墳時代の始まり～ヤマト政権の成立～ 第5回 古墳現地実習 第6回 倭の五王と巨大古墳 第7回 地方豪族の台頭 第8回 古墳時代の社会と文化 第9回 律令国家の成立～飛鳥時代から平安時代～ 第10回 古代集落と人々の暮らし 第11回 考古資料の展示法～博物館施設実習～ 第12回 福原京と大輪田泊 第13回 中世の社会～武家文化の台頭～ 第14回 近世兵庫津から近代神戸へ 第15回 総括 考古学からみる歴史像						
授業外における学習（準備学習の内容）	休日には、身近にある博物館や歴史・考古資料館を見学してください。史跡や神社仏閣なども訪ねて、その場所の地形や歴史地理を考える習慣をつけてください。						
授業方法	講義及び演習と現地見学						
評価基準と評価方法	試験40%、レポート40%、平常点20%						
教科書	プリント配布						
参考書	『日本の考古 ガイドブック』、改訂版、東京国立博物館、東京国立博物館、2004年 『考古学と歴史』、第1版、白石太一郎、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-23768-3 『考古学—その方法と現状—』、第1版、泉拓良・上原真人、財団法人放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-30913-7						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	広告企画編集						
担当教員	中谷 悦子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	広告の基礎知識の理解および表現方法の習得。						
授業の概要	広告とは、さまざまなメディアを活用し、言葉、映像、音楽を使って効果的に企業のメッセージを伝達するものです。この授業では、移り変わりゆく広告ビジネスやメディアの現況、広告制作のプロセスを理解し、広告の表現手法を学びます。広告制作の基本（コンセプトワークやコピーライティング）を学び、クリエイティブな発想力を磨くことにより、自己表現能力、コミュニケーション力の向上をめざします。						
到達目標	自分の考えやアピールポイントを、文章で効果的に表現し、相手にうまく伝えられるようになること。これは、就職活動や日常のコミュニケーションの円滑化にも大いに役立つでしょう。						
授業計画	<前期> 1. ガイダンス（授業の概要、進め方、成績評価の方法、注意事項など）。自己紹介。 2. 広告とコミュニケーション ※広告って、なあに？ 3. 広告と産業、広告ビジネスの概要 ※広告マンって、どんな人？ 4. メディアと広告表現①（新聞・雑誌） ※話題の広告を見てみよう。 5. メディアと広告表現②（テレビ・ラジオ） ※話題の広告を見てみよう。 6. メディアと広告表現③（アウト・オブ・ホームメディア） ※話題の広告を見てみよう。 7. メディアと広告表現④（インタラクティブメディア） ※話題の広告を見てみよう。 8. 広告計画からクリエイティブワークまで ※あの広告は、どうやってできた？ 9. ブランディングとは。 ※ブランドって、なんだ？ 10. コンセプトの発見。 ※何を訴えるか？ 11. 表現アイデアとその発想法 ※どう訴えるか？ 12. プレゼンテーションの手法 ※どう売り込むか？ 13. クリエイターの現場①ゲストスピーカーによる講義。 14. クリエイターの現場② ※TVCFは、どうやってできる？ 15. 広告制作のルールと倫理 ※広告に著作権ってあるの？ <後期> 1. コピーライティングとは。 ※キャッチフレーズを作ってみよう。 2. コピーライターの資質。 ※コピーライターって、どんな人？ 3. 欧米の広告表現 ※欧米の広告、TVCFを見てみよう。 4. アジアの広告表現 ※アジアの広告、TVCFを見てみよう。 5. 日本の広告表現 ※日本の広告、TVCFを見てみよう。 6. 広告業界の現状。（ゲストスピーカーによる講義） ※広告業界の“いま”を知ろう。 7. 広告に見る企業のイメージ戦略 ※好きな企業について話してみよう。 8. クロスメディアと広告キャンペーン ※クロスメディア広告を探そう。 9. 公共広告について。 ※公共広告ってなあに？ 10. ワンコピー、ワンビジュアル ※いろんな表現方法を考えよう。 11. 広告プランニング演習（新聞広告） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 12. 広告プランニング演習（TVCF） ※好きな企業（商品）の広告を企画してみよう。 13. 広告制作演習① ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 14. 広告制作演習② ※好きな企業（商品）の広告をつくってみよう。 15. プレゼンテーション ※自作の広告をプレゼンテーションしよう。						
授業外における学習（準備学習の内容）	ふだん何気なく見ているテレビや新聞、ネットなどの広告、街にある看板やPOPなどを意識的に見るように心がけてください。そして、心に残ったキャッチフレーズや感じたなどを心に留めておきましょう。						
授業方法	講義、広告作品鑑賞、広告企画・コピーライティング演習、ディスカッション、プレゼンテーション。						
評価基準と評価方法	評価のための期末試験はおこないません。講義の中で何回か課題を出しますので、必ず提出してください。提出課題の内容（40%）、グループワークの内容（20%）、取り組む姿勢（20%）、発表力（10%）、出席率（10%）などを考慮し、総合的に評価します。						
教科書	なし						

参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』 (株) 電通 藤沢武夫 『広告の学び方作り方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイナー-コミュニケーションをデザインする』 (株) 電通
-----	---

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IIA（ローマの歴史と文学）						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業のテーマ	古代ローマの歴史と文学						
授業の概要	西洋古典学（Classics）とは、古代ギリシア人およびローマ人が創造し、二千年以上にわたって西欧の歴史と文化の規範ないし基盤となってきた学問や文化を研究するもので、ギリシア語の古典文献を主とするギリシア研究とラテン語の古典文献を主とするローマ研究に分かれる。 この「西洋古典入門IIA」では古代ローマの歴史と文学の骨子を学ぶ。						
到達目標	古代ローマの歴史と文学について基礎的な知識をもつとともに、歴史や文学を学び楽しむための読解の技能を身につける。						
授業計画	第1回 すべての道はローマへ通ず。古代ローマのイメージ 第2回 ローマは1日にしてならず。ローマ史概観(1)：カエサルとクレオパトラ 第3回 ローマ史概観(2)：ローマの建国神話—アエネーアースとロムルス 第4回 ローマ史概観(3)：ポエニ戦争、カルタゴとの闘争、地中海の覇者 第5回 ローマ史概観(4)：内乱の前一世紀、キケロとカエサル 第6回 ローマ史概観(5)：神帝アウグストゥスとローマ帝国 第7回 ローマ史小テスト、ラテン文学史の時代区分 第8回 カトゥッルスのカルミナー憎んでいながらなお恋しとはどうしたわけか？ 第9回 ウェルギリウス『アエネーイス』—建国の英雄アエネーアース、ディードーの悲恋、男はつらい 第10回 オウィディウス『変身物語』（愛と変身のギリシア・ローマ神話）(1) 第11回 『変身物語』（2） 第12回 『変身物語』（3） 第13回 『変身物語』（4） 第14回 『変身物語』（5） 第15回 まとめと展望、期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって教科書を読むとともに、図書館で参考文献を借り出して読むこと。						
授業方法	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価基準と評価方法	授業への参加度30%、小テスト20%、期末テスト50%						
教科書	『ローマの歴史』（中公文庫）改版 モンタネッリ著、藤沢道郎訳 ISBN4-7907-0432-7						
参考書	授業時に指示する						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	西洋古典入門IIB（ラテン語）						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業のテーマ	ラテン語初歩―「ラテン語」とはどんな言葉か？						
授業の概要	ラテン語は古代ローマ人の言語であるが、長く西欧の学問と文化の骨格を担う言語として用いられてきた。今日でもバチカンの公用語である。英米語の語彙の半分はラテン語からできているだけでなく、フランス語、イタリア語、スペイン語などは民衆語化したラテン語の直接の子孫である。この授業では、西欧の歴史や文学に興味をもつ人だけでなく、英語やフランス語、さらには言語そのものを深く知りたいと望む人が、ラテン語とはどのような言語かを知って役立てることができるように、基本的な文法と簡単な文章を学ぶ。						
到達目標	ラテン語を声に出して読み、名詞や動詞のごく基本的な変化を学び、その範囲で簡単な文章が理解できるようになること。						
授業計画	第1回 ラテン語とはどのような言語か？ 第2回 文字と発音(1) 第3回 文字と発音(2) 第4回 名詞の変化―第1変化名詞と第2変化名詞 第5回 形容詞の変化―第1・2変化形容詞 第6回 動詞の変化(1)―直説法・能動相・現在人称変化、動詞の4種類と不定法 第7回 動詞の変化(2)―未完了過去と未来の人称変化 第8回 動詞の変化(3)―SUMとPOSSUM 第9回 前置詞、副詞、接続詞 第10回 動詞の変化(4)―受動相の現在・未完了過去・未来 第11回 第3変化の名詞と形容詞 第12回 簡単な文章を読む(1) 第13回 簡単な文章を読む(2) 第14回 簡単な文章を読む(3) 第15回 まとめと展望、テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の進度に合わせ、また授業中の指示にしたがって教科書を読み、習ったラテン語の意味や変化形がしっかり頭に入るように練習すること。						
授業方法	教科書とプリントを用いながら講義する。受講者が発音から文法事項・変化のひとつひとつをきちんと理解し、記憶することを前提に、適宜ラテン文の訳読を宿題として課す。						
評価基準と評価方法	授業への積極的参加、課題への取り組みなど平常点50%、筆記テスト50%で評価する。						
教科書	『はじめてのラテン語』（講談社現代新書）大西英文著 ISBN4-06-149353-1						
参考書	授業時に紹介する						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅠA						
担当教員	多賀谷 真吾・武田 良材						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	現代のイギリス・ドイツの文学と文化						
授業の概要	担当者：多賀谷 真吾 テーマ：文芸としての英米文学 英米文学における詩と劇の話を。具体的には、シェイクスピアの劇、ワーズワスのロマン派の詩、そしてマザー・グースなどである。詩を身近に感じて、親しんでもらうことがこの授業の最大目標である。文学としてではなく、文芸としての詩の面白さを紹介するが、そのひとつのやり方として、後半の授業では、詩が映画という他の芸術領域と密接な関係を持つことを指摘する。 担当者：武田 良材 テーマ：戦争とドイツ文学 ここ百年間ほどのドイツ語圏（主にドイツ、オーストリア、スイス）の文学を理解するには、ナチズムの歴史を押さえておく必要がある場合が多い。これは日本のドラマや長編小説に太平洋戦争がからんでくることが多いのと同様である。この講義では、戦争とドイツ語文学をテーマに、日本でも知られた文学作品を紹介する。ノーベルに平和賞を作らせたともいわれる平和活動家ズットナーから始め、第一次世界大戦の悲惨さを世界に知らしめたレマルク、ドイツの国土は狭隘だと主張してヒトラーに愛読されたグリム、ナチス・ドイツの危険性を世界に訴えたマンナー族（ハインリヒとトーマスの兄弟、トーマスの子どもたち）、ナチスに抵抗しなかったことを恥じたファラダ、戦争責任のない世代としてナチズムの歴史を冷静に扱ったシュリンク、ナチズムと似通ったソ連の東欧抑圧の歴史をも踏まえたミュラーと見てゆき、現代ドイツ文学の骨格をつかむ。日本とドイツは縁が深く、日本について理解するのににも有益な内容である。						
到達目標	近現代のイギリス・ドイツの文学と文化を理解できる。						
授業計画	担当者：多賀谷 真吾 第1回：イントロダクション 第2回：英語の詩ってどんなもの？ 第3回：マザーグースとは？ 第4回：詩人と自然―ワーズワス 第5回：シェイクスピアの言葉の力 第6回：詩と映画の深い関係（1）『いまを生きる』 第7回：詩と映画の深い関係（2）『マディソン郡の橋』 第8回：まとめと結論 担当者：武田 良材 第1回：ノーベルに愛された平和主義者：ベルタ・フォン・ズットナー『武器を捨てよ！』 第2回：悲惨な戦場：エーリヒ・マリア・レマルク：『西部戦線異状なし』 第3回：ナチス文学の頂点：ハンス・グリム：『土地なき民』 第4回：亡命しない出世主義者：クラウス・マン『メフィスト』（同名の映画が名高い） 第5回：ナチスを支持した国民の贖罪：ハンス・ファラダ『ベルリンに一人死す』 第6回：戦争責任世代の退場：ベルンハルト・シュリンク『朗読者』（映画「愛を読むひと」が名高い） 第7回：ナチズムとスターリニズム：ヘルタ・ミュラー『息のブランコ』						
授業外における学習（準備学習の内容）	各授業担当者の指示に従うこと。						
授業方法	2人の講師によるオムニバス形式の講義						
評価基準と評価方法	出席30%、レポート70%で評価。2人の講師が出した評点の平均値によって成績が決定される。						

教科書	プリントを配布
参考書	授業中に紹介

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅡB						
担当教員	杉野 ゆり・浦部 依子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ロシア文化史と中国近現代文学概論						
授業の概要	担当者：杉野 ゆり 19世紀から20世紀にかけてのロシアの歴史、文学、オペラ、映画について概説する。19世紀ロシア文学の父であるプーシキンの作品を中心に、二大文豪であるドストエフスキイとトルストイの生涯と作品についても紹介する。最後に、ロシア連邦の東、シベリアに魅力を見出した日本人たちとロシアの文化交流を取り上げたい。 担当者：浦部 依子 アヘン戦争（1840）を起点に辛亥革命や五・四運動を経て、それまでの中国文化の体系は大きく変化した。五・四以降、内外の複雑な政治状況の中で胚胎した新しい文学は、現代中国に託されたある文学方向を確実に形成していった。本講義は、清末から五・四運動（1919）前までの中国近代文学の状況と、五・四運動から新中国の成立（1949）までの現代文学の状況、およびそれ以降の文芸上の重要事項をとりあげ、中国近現代文学の誕生の周辺とその諸相について講じる。 講義で取り扱う新しい文学の基礎は、文言に替わる口語体の文章の提唱など、中国伝統文学の特質とは異なるものであるが、その一方で変わることのない共通点がある。それは、中国文学はおおよそ何れの時代においても、政治を抜きにしては述べ難いという点である。 毎回の講義では、各時期の社会背景を概説したのち重要な作家を取りあげ、作品解釈や討論などを通して、時代の作家が表現しようとしたものについての考察を進めてゆく。						
到達目標	担当者：杉野 ゆり 近現代のロシアの文学・文化に親しみ、日ロの文化交流について理解すること。 担当者：浦部 依子 世界の古典的な作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を作る。						
授業計画	担当者：杉野 ゆり 第1回：ロシア史概観と文化的背景 第2回：プーシキンの韻文体小説『オネーギン』とロシア・オペラ 第3回：プーシキンの短編集『ペールキン物語』を楽しむ 第4回：ロシアの児童文学と絵本（プーシキンの民話を中心に） 第5回：ドストエフスキイの作品と思想（『罪と罰』を中心に） 第6回：トルストイの生涯と作品 第7回：シベリアと日本人（黒澤明監督映画『デルス・ウザーラ』を中心に） 担当者：浦部 依子 ＊取り上げる作家や作品は、変更することがある。 第1回 中国文学史における近現代文学の位置と特質 第2回 清末の社会背景と文学（梁啓超「太平洋遇雨」・女流作家秋瑾「滿江紅」） 第3回 中華民国期の社会背景と文学（文学の革命・五四新文化運動・胡適・陳独秀・魯迅「狂人日記」） 第4回 中華民国期の文学（革命の文学・女流作家謝冰心「二つの家庭」・魯迅「阿Q正伝」・郭沫若） 第5回（小テスト①実施） 中華民国期の文学（茅盾「子夜」・巴金「家」・老舍「駱駝祥子（らくだのシアンツ）」・女流作家たち：丁玲・張愛玲 第6回 中華人民共和国（新中国）成立期の社会背景と文学（毛沢東「文芸講話」・趙樹理） 第7回 文化大革命期の文芸（歴史戯曲 吳晗「海瑞罷官」・文化大革命・革命現代京劇） 第8回（小テスト②実施） 近現代文学のまとめ 授業外における学習 （準備学習の内容） Required Preparation ① 各回の講義前に、コースパックを熟読しておく。 ② 取り上げる作家・作品・時代について、訳書・参考文献・ネット・動画などで予め調べ、効果的な研究につなげる。						
授業外における学習（準備学習の内容）	担当者：杉野 ゆり ①シラバスに挙げた作品をあらかじめ読んでおくことが望ましい。 ②ロシアの歴史と文化について、文献やインターネットや映画から、積極的に予備知識を得て、授業に参加すること。 担当者：浦部 依子 ① 各回の講義前に、コースパックを熟読しておく。 ② 取り上げる作家・作品・時代について、訳書・参考文献・ネット・動画などで予め調べ、効果的な研究につなげる。						

授業方法	文学講義（映像資料によるレビュー・討論を含む）
評価基準と評価方法	二人の担当者が出した評点の平均値によって決定する。 担当者：杉野 ゆり 平常点50%（出席率、課題、理解度を問う小テスト）、レポート50%で評価する。 担当者：浦部 依子 ・平常点約50%（課題・発言等積極的な授業参加）、小テスト2回約50%で総合的に評価する。 ・小テストは、講義内容を問う客観と主観の問題から成り、約20分で提出する。
教科書	担当者：杉野 ゆり プリントを配布 担当者：浦部 依子 ・コースバックを使用する。
参考書	担当者：杉野 ゆり 1) プーシキン全集全6巻、河出書房新社。第2巻：『オネーギン』、第3巻：民話、第4巻：『ペールキン物語』 2) プーシキン『オネーギン』、岩波文庫604-1 3) プーシキン『スペードの女王』『ペールキン物語』、岩波文庫604-2 4) プーシキン『スペードのクイーン』『ペールキン物語』、光文社古典新訳文庫 プーシキンの民話の絵本はたくさんあるので児童書から探すことも可能。 その他、世界文学全集や各文庫に入っているプーシキンの作品、ドストエフスキ『罪と罰』、トルストイ『戦争と平和』、あるいはこれらの作品を映画化したもの。 担当者：浦部 依子 参考文献と訳書（抜粋）： 1) 吉田 富夫『中国現代文学史 一九一五-四九』朋友書店 1997 ISBN-10: 4892810517 2) 藤井省三/大木康『新しい中国文学史』京都：ミネルヴァ書房1997 ISBN-10: 4623027503 * 第11部近現代の中国文学p102 3) 魯迅著/竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記 他十二篇（呐喊）』東京：岩波書店1981 ISBN-10: 400320252X 4) 山田敬三『魯迅の世界』東京：大修館書店 1977 ISBN-10: 4469230278 5) 芦田肇主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈1〉』東京：二玄社 2000 ISBN-10: 4544030366 6) 佐治俊彦主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈2〉』東京：二玄社 2000 ISBN: 4-544-03037-4 7) 白水紀子主編/丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈3〉』東京：二玄社 2001 ISBN: 4-544-03038-2 8) 『中国現代文学選集』（全20巻）東京：平凡社 1962～1963 9) 『現代中国文学全集』（全15巻）東京：河出書房1954～1958 10) 丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』東京：東京堂出版1985, 1996 ISBN: 4490102011 11) 魯迅作・竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記他十二篇（呐喊）』東京：岩波書店・岩波文庫1981年版 12) 章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 13) 山田敬三『魯迅―自覚なき実存』東京：大修館書店2008 ISBN-10: 4469232521

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅡA						
担当教員	釣 馨・宮田 玲						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典となっている世界の文学や芸術作品について学ぶ。 担当者：釣のテーマは、「ヨーロッパの古典文芸」 担当者：宮田のテーマは、「古代オリエントの文芸作品」						
授業の概要	2名の教員によるオムニバス講義である。各担当者の授業の概要は以下の通り。 担当者：釣馨 ヨーロッパの中世から17世紀末までの古典文芸の特質を理解することを目的とする。ヨーロッパの古典文芸は、ギリシア・ローマ文化とキリスト教文化という二つの大きな潮流に根を下ろしているが、授業では、各時代の社会状況にもふれながら、テーマに沿って作品を概観する。 担当者：宮田玲 古代メソポタミア、シリア・パレスティナ、エジプトからは、非常に古い時代の文芸作品が多くもたらされており、人類がいかに早くから文字テキストを生み出していたかをみることができる。講義では、古代メソポタミア（バビロニア、アッシリア）と古代エジプトから、代表的ないくつかの物語を取り上げる。また、当時の文字である楔形文字やヒエログリフのほか、文芸作品のテーマとかかわる美術作品についても紹介する。						
到達目標	世界の古典的な作品の紹介と解説を受けて、テキストを自分なりに読み解き、鑑賞することができるようになる。						
授業計画	担当者：釣馨 第1回 ヨーロッパの歴史・地域・文化 第2回 地獄から天国へ：ダンテ『神曲』 第3回 生きている人々の姿：ボッカッチョ『デカメロン』 第4回 演劇と教会の成立：モリエール『ドン・ジュアン』 第5回 近代小説の萌芽：ピカレスク（悪漢）小説 第6回 ペローの『童話集』と新旧論争 第7回 講義のまとめ、筆記試験 担当者：宮田玲（前期全体を通して第8回目、後半部の第1回となる） 第1回 古代メソポタミアの風土と歴史。 第2回 エヌマ・エリシュ―バビロニア創造神話― 第3回 アトラ・ハシス―大洪水物語― 第4回 ギルガメシュ叙事詩―英雄ギルガメシュの生と死― 第5回 小テスト。ハンムラビ法典―古代の判決集― 第6回 古代エジプトの風土と歴史。 第7回 古代エジプトの神話。ヒエログリフ（エジプト聖刻文字）と芸術表現。 第8回 アテン賛歌―太陽神信仰―						
授業外における学習（準備学習の内容）	担当者：宮田 教科書（配布資料）を熟読しておくこと						
授業方法	担当者：釣 毎回の講義のあと、講義のまとめと感想を書く。最終回に筆記試験を行う。 担当者：宮田 講義						
評価基準と評価方法	担当者：釣 平常点50%（毎回のまとめと感想）＋筆記試験50%で評価。 担当者：宮田 試験約60%、平常点約40%。						
教科書	担当者：釣 プリントを配布する。 担当者：宮田講義開始日に配布する資料「世界の文芸Ⅱ」。						
参考書	授業時に指示する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	世界の文芸ⅡB						
担当教員	浦部 依子・木下 昌巳						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	浦部 依子 「中国古典戯曲のヒロインたち」 木下 昌巳 「古代ギリシアの文明」						
授業の概要	浦部 依子 中国文学には各時代が誇る代表的なジャンルがあり、時代がくだるにつれこれらジャンルの花々が豊かに咲きそろいます。まず漢代の「賦」と唐代の「詩」の成就があります。宋代には音楽を伴う歌詞を意識した「詞（ツイ）」が栄え、元の時代の雑劇「曲」は中国文学史に新風を吹きこみました。続いて明清には「小説・戯曲」の盛行を見ました。さて、この講義で扱う女性や両性（男女）関係に関する文学主題は、おもに元明清を代表する、より後発的な戯曲・小説のジャンルにおいて、ひとときわ精彩を放っています。 本講義では、中国文学の特質と文学史における戯曲文学の位置を講じたのち、毎回ひとつの戯曲の名作を紹介し、ヒロインの時代と意識の探討や映像資料による鑑賞と討論、さらに名場面の文学表現の発表を通して、中国古典戯曲文学におけるヒロインの主体意識を、多面的に考察します。						
到達目標	浦部 依子 世界の古典的な作品に親しみ、3年次以降の学びの基礎を作る。 木下 昌巳 世界の古典的な作品の紹介・解説を受けて、テキストを自分なりに読み解き、鑑賞することができるようになる。						
授業計画	浦部 依子 * 戯曲は変更することがある 第1回 中国文学の特質と古典戯曲文学の位置 1) 匈奴へ嫁した宮女 王昭君 「昭君出塞（しょうくんしゅっさい）」 第2回 2) メイドがとりもつお嬢様の恋 崔鶯鶯 「西廂記（せいしょうき）」 第3回 3) 糠（ぬか）をたべる嫁 趙五娘 「琵琶記（びわき）」 第4回 4) 生き返ったお嬢様 杜麗娘 「牡丹亭（ぼたんてい）」 第5回 5) 名妓が拾ったまことの恋 王美娘 「占花魁（おいらんをひとり占め）」 第6回 6) 歴史は動き愛は終わった 楊貴妃 「長生殿（ちょうせいでん）」 第7回 （レポート提出）女性主体意識討論と文学の表現（グループ発表） 担当者：木下昌巳 第1回 ギリシアの文芸概観 第2回 ギリシア悲劇の概観 第3回 ソポクレス『オイディプス王』の上演を鑑賞する（1） 第4回 ソポクレス『オイディプス王』の上演を鑑賞する（2） 第5回 ギリシア悲劇と現代思想—オイディプス・コンプレックスについて 第6回 ギリシアの文芸とギリシア哲学 第7回 プラトン『饗宴』を読む（1） 人はなぜ恋をするのか？ 第8回 プラトン『饗宴』を読む（2） 「プラトニック・ラブ」とは何か？						
授業外における学習（準備学習の内容）	浦部 依子 ① 各回の講義前に、コースパックを熟読しておく。 ② 取り上げる戯曲について、訳書・参考文献・ネット・動画などで予め調べ、効果的な研究につなげる。 ③ 「レポート提出に関する注意」を読んでおく。 木下 昌巳 配布資料「世界の文芸Ⅱ」を授業前に熟読しておくこと						

授業方法	浦部 依子 文学講義（映像資料によるレビューと討論を含む）と演習（グループによる名場面の寸劇発表） 木下 昌巳 講義と悲劇上演の鑑賞（DVDによる）
評価基準と評価方法	浦部 依子 レポート（この他に小テストを実施することがある）60%、文学の表現20% 積極的授業参加（討論・発言）20% 木下 昌巳 レポート70%、平常点30%。
教科書	浦部 依子 ・コースブックを使用する。
参考書	浦部 依子 ・中国文学全般の参考文献（抜粋）： 倉石武四郎『中国文学講話』東京：岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京：弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都：朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都：世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 浦部依子「花の中国文学漫歩」（月刊『東方』連載）東京：東方書店1998年3月 ～99年2月（205号～216号）ISSN: 0910-8904 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 （中国語）章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学 出版社2007 ISBN: 9787309054620 ・戯曲の日本語訳書（抜粋）： 王昭君（おうしょうくん） 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳 国訳漢文大成文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 西廂記（せいしょうき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註 国訳漢文大成文学部第9巻//a 東京：国民文庫刊行會，1923 2『西廂記』王実甫著、鹽谷節山訳 東京：昌平堂，1948 3『新訳西廂記』岸春風楼訳 東京：文教社，1916（大正5年） 4『西廂記』岡島獻太郎訳 東京：團々社書店（発売），1894 琵琶記（びわき） 1『西廂記・琵琶記』宮原民平訳註 国訳漢文大成 文学部第9巻//a東京：国民文庫刊行會，1923 2『國譯琵琶記』鹽谷温訳註 国訳漢文大成 文学部第35冊（第9帙の3）東京：国民文庫刊行會，1923 3『中国古典文学全集』戯曲集 第33巻 東京：平凡社，1959 牡丹亭（ぼたんてい） 1『還魂記・漢宮秋』宮原民平訳 国訳漢文大成文学部第10巻//b 東京：国民文庫刊行會，1921.7 2『還魂記』岩城秀夫訳（中国古典文学大系・戯曲集・下）東京：平凡社，1971/1994 占花魁（おいらんを独り占め） 1「売油郎独占花魁」『今古奇観・上』中国古典文学大系37千田九一他訳 東京：平凡社，1970/1994 長生殿（ちょうせいでん） 1『長生殿』塩谷温訳（『国訳漢文大成 文学部17』所収 国民文庫刊行會1923） 2『長生殿—玄宗・楊貴妃の恋愛譚』洪昇著、岩城秀夫訳 東京：東洋文庫2004 添付ファイル 担当者：木下昌巳 ソポクレス 著 藤澤令夫訳 『オイディプス王』（岩波文庫） プラトン著 森進一訳『饗宴』（新潮文庫）

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	打田 素之						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	文芸作品の分析と研究						
授業の概要	各自の関心に応じて、文芸作品（メディア、サブカルチャー、文学、映画、演劇など）を取り上げ、自分の考えを論理的な文章にまとめる練習を行う。						
到達目標	文芸作品を自らの力で解釈し、先行研究を踏まえながら、独自の視点から分析する能力の獲得を目指す。						
授業計画	1. 授業計画の説明、卒論の書き方の指導 2. 先行研究の探し方、発表の順番の決定 3. 「はじめに」とテーマの説明（1） 4. 同（2） 5. 同（3） 6. 同（4） 7. 「第1章 具体例の紹介」の発表（1） 8. 同（2） 9. 同（3） 10. 同（4） 11. 「第2章 定説と先行研究の紹介」（1） 12. 同（2） 13. 同（3） 14. 前期のまとめ 夏休みの課題： テーマに関連した文献を読む。 15. 夏休みの課題報告（1） 16. 同（2） 17. 「第3章 定説に対する反論」の発表発表（1） 18. 同（2） 19. 同（3） 20. 同（4） 21. 「第4章 本論の発表」（1） 22. 同（2） 23. 同（3） 24. 同（4） 25. 「第5章 結論」の発表（1） 26. 同（2） 27. 同（3） 28. 同（4） 29. レジメの指導 30. 口頭試問 1 31. 口頭試問 2						
授業外における学習（準備学習の内容）	テーマに関連した作品と批評、研究論文を読む。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表（25％）、平常点（25％）、卒業論文の内容（50％）						
教科書	なし						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	西川 純司						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	現代メディア文化をテーマとする卒業研究および卒業論文の作成にむけた指導をします。						
到達目標	自分で問いを立て、調べ、考察し、卒業論文を書き上げることを目指します。						
授業計画	前期 1 イントロダクション 2～5 卒業研究の進め方 6～7 論文講読 8～14 卒論テーマの口頭発表 15 夏休み期間に向けた全体指導 後期 16～17 研究状況の報告 18～26 個別指導による論文作成 27～28 提出に向けた最終確認 29～30 卒業論文試問 ・なお、授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業論文を書き上げるためには、授業外での文献探索、資料収集、文献精読が必須です。						
授業方法	演習および個別指導						
評価基準と評価方法	卒業論文の内容80%、平常点20%、で評価します。						
教科書	授業中に指示します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	栢井 智英						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	演劇文化にかかわるテーマについての 卒業研究と卒業論文の作成指導。						
到達目標	卒業研究のテーマを決定して必要な情報を収集し、ディスカッションや発表を通して理解を深め卒業論文をまとめあげる。						
授業計画	前期 1. 卒業研究の進め方 2. 卒業論文の書き方・作成の仕方① 3. 卒業論文の書き方・作成の仕方② 4～8. 第1回卒論テーマに関する個人発表（文献の要約など） 9～13. 第2回卒論テーマに関する個人発表（主要テキストや上演などの選定） 14～15. 問題の絞り込みと夏休み期間中の研究計画① 後期 16. 夏休み期間の研究状況の報告 17～19. 中間発表 20～24. 個別指導による研究の展開と執筆 25. 草稿の提出 26～28. 提出前点検 29～30. 提出論文の講評、再提出指導						
授業外における学習（準備学習の内容）	文献の検索や、調査などをしっかり行う。討論での意見、教員の指導を積極的に利用する。						
授業方法	演習形式および個別指導						
評価基準と評価方法	卒業論文80% 取り組みの姿勢20%						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて決定していく						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文の作成						
授業の概要	文芸・芸術・文化（近現代中心、欧米－日本中心）をめぐって、 個々の学生の関心に沿ったテーマを教員と共に模索し、 自らの４年間の集大成としての卒業論文の作成を目指して個別指導する。						
到達目標	自らの研究テーマに沿った納得のゆく卒業論文を、不安感なく完成できる。						
授業計画	原則として個別指導。３年時４年時のゼミにおける学修の実態と成果に応じた指導となる。 個々の学生の事情や希望に従って適宜、指導の内容・方法・時期・日時・場所等を個別に相談しながら進める。 内容・段階の見当のために下記のように回を参考として挙げるが、各学生の実情に合わせて柔軟に対処する。 以上については各人が安心できるよう随時指導し説明する。 第１回 主にテーマに関して１ これまでの学習から見直し 第２回 主にテーマに関して２ これまでの学習から検討 第３回 主にテーマに関して３ 現在の研究から見直し 第４回 主にテーマに関して４ 現在の研究から検討 第５回 主にテーマに関して５ 現在の研究から見直し 第６回 主にテーマに関して６ 今後の研究へ概観 第７回 主にテーマに関して７ 今後の研究へ詳細 第８回 主にテーマに関して８ 今後の研究へ問題点 第９回 主に内容に関して１ これまでの学習から見直し 第１０回 主に内容に関して２ これまでの学習から検討 第１１回 主に内容に関して３ 現在の研究から見直し 第１２回 主に内容に関して４ 現在の研究から見直し 第１３回 主に内容に関して５ 今後の研究へ総体 第１４回 主に内容に関して６ 今後の研究へ問題点 第１５回 主に内容に関して７ 夏季休暇の課題 第１６回 主に内容に関して８ 夏季休暇後の見直し 第１７回 主に内容に関して９ 夏季休暇後の検討 第１８回 主に内容に関して１０ 夏季休暇後の問題点 第１９回 主に内容に関して１１ 夏季休暇後の整理 第２０回 主に内容に関して１２ 構成に向けて 第２１回 主に構成に関して１ 概観 第２２回 主に構成に関して２ 詳細 第２３回 主に構成に関して３ 具体 第２４回 主に構成に関して４ 確定 第２５回 主に記述に関して１ 概観 第２６回 主に記述に関して２ 詳細 第２７回 主に記述に関して３ 具体 第２８回 主に記述に関して４ 全体 第２９回 主に提出に関して１ 完成 第３０回 主に提出に関して２ 修正						
授業外における学習（準備学習の内容）	常に卒業論文の制作に意欲的に意識して取り組んでいること。						
授業方法	演習（全体指導と個別指導による）						
評価基準と評価方法	平常点３０％（卒業論文作成過程上のすべて）、論文７０％（結果として作成された卒業論文）						

教科書	適宜、個人的に提示・紹介
参考書	適宜、個人的に提示・紹介

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	文芸第1演習を修得した者を対象に、比較文学・文芸批評の領域において、卒業研究および卒業論文作成を指導する。						
到達目標	受講生各自が選択した主要テキストを綿密に読解考察し、参考文献を探索調査して、自分なりの問題を見出し、有意味で整合的な解答を構築するという作業を完遂することが到達すべき目標です。これによって、これまでさまざまな授業で積み上げてきた「読んで考える力、考えて書く力」に総仕上げを施すことになる。						
授業計画	前期 第1回 インTRODakションー卒業研究と卒業論文について 第2回 広い研究トピックの選定(1) 第3回 広い研究トピックの選定(2) 第4回 主要テキストの選定(1) 第5回 主要テキストの選定(2) 第6回 主要テキストの選定(3) 第7回 参考文献の探索(1) 第8回 参考文献の探索(2) 第9回 主要テキストの解題と参考文献リストの作成 第10回 問題の探索(1) 第11回 問題の探索(2) 第12回 問題の探索(3) 第13回 先行研究・資料の収集(1) 第14回 先行研究・資料の収集(2) 第15回 問題の絞込みと夏休み期間中の研究計画 後期 第1回 第一次草稿提出 第2回 中間報告会(1) 第3回 中間報告会(2) 第4回 個別指導による研究の展開と執筆 第5回 個別指導による研究の展開と執筆 第6回 個別指導による研究の展開と執筆 第7回 個別指導による研究の展開と執筆 第8回 個別指導による研究の展開と執筆 第9回 個別指導による研究の展開と執筆 第10回 個別指導による研究の展開と執筆 第11回 第二次草稿提出 第12回 提出前点検 第13回 提出前点検 第14回 卒業論文試問 第15回 卒業論文試問						
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業研究は卒業年次の大半の時間をあてて取り組むべき授業である。授業外における広範な文献・資料調査が要求される。						
授業方法	前期は演習形式で、順番に経過報告・発表しながらディスカッションする。後期は中間報告会のあとは個別指導による研究の展開と執筆。毎週2～3名ずつ面談する。						
評価基準と評価方法	卒業研究への取組み30%、提出された卒業論文の出来具合70%で評価する。						
教科書	授業時に指示する。						

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	卒業研究／Graduation Thesis						
担当教員	山田 道夫						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業研究・論文作成の指導						
授業の概要	文芸第1演習を修得した者を対象に、比較文学・文芸批評の領域において、卒業研究および卒業論文作成を指導する。						
到達目標	受講生各自が選択した主要テキストを綿密に読解考察し、参考文献を探索調査して、自分なりの問題を見出し、有意味で整合的な解答を構築するという作業を完遂することが到達すべき目標です。これによって、これまでさまざまな授業で積み上げてきた「読んで考える力、考えて書く力」に総仕上げを施すことになる。						
授業計画	前期 第1回 インTRODakションー卒業研究と卒業論文について 第2回 広い研究トピックの選定(1) 第3回 広い研究トピックの選定(2) 第4回 主要テキストの選定(1) 第5回 主要テキストの選定(2) 第6回 主要テキストの選定(3) 第7回 参考文献の探索(1) 第8回 参考文献の探索(2) 第9回 主要テキストの解題と参考文献リストの作成 第10回 問題の探索(1) 第11回 問題の探索(2) 第12回 問題の探索(3) 第13回 先行研究・資料の収集(1) 第14回 先行研究・資料の収集(2) 第15回 問題の絞込みと夏休み期間中の研究計画 後期 第1回 第一次草稿提出 第2回 中間報告会(1) 第3回 中間報告会(2) 第4回 個別指導による研究の展開と執筆 第5回 個別指導による研究の展開と執筆 第6回 個別指導による研究の展開と執筆 第7回 個別指導による研究の展開と執筆 第8回 個別指導による研究の展開と執筆 第9回 個別指導による研究の展開と執筆 第10回 個別指導による研究の展開と執筆 第11回 第二次草稿提出 第12回 提出前点検 第13回 提出前点検 第14回 卒業論文試問 第15回 卒業論文試問						
授業外における学習（準備学習の内容）	卒業研究は卒業年次の大半の時間をあてて取り組むべき課業である。授業外における広範な文献・資料調査が要求される。						
授業方法	前期は演習形式で、順番に経過報告・発表しながらディスカッションする。後期は中間報告会のあとは個別指導による研究の展開と執筆。毎週2～3名ずつ面談する。						
評価基準と評価方法	卒業研究への取り組み30%、提出された卒業論文の出来具合70%で評価する。						
教科書	授業時に指示する。						

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化ⅠA						
担当教員	打田 素之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	19世紀から20世紀にかけての文芸の流れ						
授業の概要	20世紀初頭に始まった文学（小説）の変貌が、絵画、音楽などの諸ジャンルの変貌と連動したものであったことを、有名作品を解説しながら跡付けて行く。						
到達目標	19世紀から20世紀にかけての文芸ジャンル変貌の大きな流れを説明することができる						
授業計画	1. 導入、授業計画の説明 2. 19世紀小説の特徴（1）バルザック 3. （2）自然主義の小説 4. 19世紀小説への疑問（1）全能の作者の問題 5. （2）アンドレ・ジイドの『贗金つかい』 6. 20世紀イギリスの小説 7. 19世紀末のヨーロッパ社会と音楽 8. 第1次世界大戦前後のヨーロッパ社会と音楽 9. 第2次世界大戦前後のヨーロッパ社会と音楽 10. キュービズムと現代絵画の流れ概説 11. 第2次世界大戦以前の映画 12. ヌーヴェルヴァーグ映画の革新 13. ヌーヴェルヴァーグとフランス文学 14. 現代のポップカルチャー 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点56％、テスト44％						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化ⅠB						
担当教員	打田 素之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	現代絵画と禅思想の関係を探る						
授業の概要	フランスの哲学者ジル・ドゥルーズの『ペーコン論』を読み解きながら、禅思想との関連を調べて行く。						
到達目標	現代絵画の一つの特徴が、禅の悟りの概念と同じ特徴を持っていることが説明できる。						
授業計画	1. 導入、授業内容の説明 2. フランシス・ペーコンについて 3. ドゥルーズの『ペーコン論』（1）円 4. 同（2）闘技 5. 同（3）身体 6. 同（4）力 7. 禅について 8. 禅と日本文化（1）死生観 9. 同（2）自然観 10. 禅の悟りについて 11. 道元の『正法眼蔵』 12. ペーコンの時間と「悟り」の時間 13. 現代絵画と東洋文化がもつ時間性 14. まとめとテスト 15.						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示する。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点56％、テスト44％						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化ⅡA						
担当教員	枡井 智英						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを理解し、また映画に登場する女性の存在に着目し、その社会の中における女性の立場を考えてみましょう。鑑賞する映画作品は、アジア、ヨーロッパ、そして南米から選びました。						
到達目標	映画をストーリーだけでなく、その作品にあらわれる現代社会や女性の立場などの映像リテラシーを読み解く能力を高める。						
授業計画	1回 授業概要と成績評価基準の説明 2回 『さらば、わが愛/覇王別姫』の背景（第二次大戦前から文化大革命を含めた20世紀の中国）解説 3回 『さらば、わが愛/覇王別姫』鑑賞 4回 『さらば、わが愛/覇王別姫』観賞 5回 『さらば、わが愛/覇王別姫』鑑賞後の解説、感想文記入 5回 『ライフ・イズ・ビューティフル』の背景（イタリアの第二次世界大戦とユダヤ人の問題）解説 6回 『ライフ・イズ・ビューティフル』観賞 7回 『ライフ・イズ・ビューティフル』鑑賞後の解説、感想文記入 8回 『トム・ボーイ』の背景（現代フランスや日本のセクシャリティと性同一障害について）解説 9回 『トム・ボーイ』観賞 10回 『トム・ボーイ』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『瞳の奥の秘密』の背景（1970年代のアルゼンチンの政治的、社会的背景）解説 12回 『瞳の奥の秘密』鑑賞 13回 『瞳に奥の秘密』鑑賞後の解説、感想文記入 14回 まとめ：それぞれの作品における女性について 15回 まとめ：政治的、社会的、そして文化的背景と映画作品の関連について						
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。						
授業方法	講義と映像観賞、そしてディスカッションの時間も設けて理解を深める。						
評価基準と評価方法	出席と映画鑑賞後の感想文50%、レポート50%。						
教科書	毎回、解説プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化ⅡB						
担当教員	西川 純司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会						
授業の概要	映画鑑賞を通して、現代社会におけるさまざまな問題を深く理解することを目指します。とりわけ、実存や文化、差別、メディアを主題とした映画を取り上げます。授業では、まず映画で描かれる社会の背景を解説したうえで、映画を鑑賞します。鑑賞後、関連する文芸作品を紹介しながら、ディスカッションを通して内容の理解を深めたいと思います。						
到達目標	・現代社会におけるさまざまな問題を理解するための基礎的な知識を習得します。 ・映画を批評し、内容について他者と討論する力が身につきます。						
授業計画	1 イントロダクション 2 映画批評とは：映画に対するアプローチ 3 実存について考える（１）：現代社会における実存の問題についての解説 4 実存について考える（２）：『桐島、部活やめるってよ』鑑賞 5 実存について考える（３）：ディスカッション・小レポート 6 文化について考える（１）：自文化中心主義／文化相対主義についての解説 7 文化について考える（２）：『パリ20区、僕らのクラス』鑑賞 8 文化について考える（３）：ディスカッション・小レポート 9 差別について考える（１）：アメリカにおける偏見・差別問題についての解説 10 差別について考える（２）：『ズートピア』鑑賞 11 差別について考える（３）：ディスカッション・小レポート 12 メディアについて考える（１）：日本におけるマスコミ報道についての解説 13 メディアについて考える（２）：『FAKE』鑑賞 14 メディアについて考える（３）：ディスカッション・小レポート 15 まとめ ※鑑賞する作品は変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常的に新聞やニュースに触れることで、授業の予習・復習をしてもらいたいと思います。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションをする機会も設けます。						
評価基準と評価方法	小レポート 40%（10点×4回）、平常点（ディスカッションへの参加や出席）60%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化ⅢIA						
担当教員	植 朗子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファンタジーの「善悪」をめぐる比較文化論						
授業の概要	児童文学、メルヒェン、神話に関する資料（映像資料を含む）をもとに、ファンタジー世界の「善」と「悪」の表象について学びます。本来、空想上の世界、架空の設定であるにもかかわらず、その世界観には、作品が作られた地域や時代の思想が、文化背景にあります。作品を視聴し、比較文化的な視点をもって、作品を分析します。						
到達目標	児童文学、メルヒェン、神話を取り扱った、映画や文芸作品を見ることからはじめます。それぞれの作品の背景にある、精神文化について知ることができます。自分たちが論文やレポートを書くための技術についても学ぶことができます。授業の最後には論述形式のテストをしますので、皆さんの関心にそった小論を書き上げてもらいます。						
授業計画	第1回 主旨説明 第2回 文学ジャンルにおける「ファンタジー」の定義 第3回 物語における「悪」 第4回 物語における「善」 第5回 「悪」の両義性とファンタジーの展開：『ハリーポッター』シリーズ 第6回 社会悪とファンタジー①：『風の谷のナウシカ』 第7回 社会悪とファンタジー② 第8回 メルヒェン（童話・昔話）における「善人」と「悪人」：『美女と野獣』 第9回 メルヒェンの女性像と「善」 第10回 メルヒェンの女性像と「悪」 第11回 ファンタジーと現実 第12回 ファンタジーと現実 第13回 ファンタジーの効用 第14回 まとめ 第15回 テストと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	配布した資料をよく読み、疑問点は講義の中で質問して下さい。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	テスト70％ 平常点30％						
教科書	なし（プリントを配布します）。						
参考書	河合隼雄『〈子どもとファンタジーコレクション4〉 子どもと悪』（岩波現代文庫、2013年）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化ⅡIB						
担当教員	植 朗子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画・ドラマにおける「ヒーロー」と「ヒロイン」をめぐる比較文化論						
授業の概要	古典を題材にした英雄伝説からはじめ、現代の「英雄」「ヒーロー」の表象について学ぶため、映画や文芸作品を見ることから始めます。それぞれの作品の背景にある精神文化について知り、現代の問題について、比較文化的な視点から論じます。自分たちが論文やレポートを書くための技術についても学ぶことができます。授業の最後には論述形式のテストをしますので、皆さんの関心にそった小論を書き上げてもらいます。（視聴する作品はシラバスの記載のものと変更することがあります。）						
到達目標	さまざまな映画や小説などを見ることから始め、それぞれの作品の背景にある、時代、ジェンダー観の変化、地域の特性などについて知ることができます。特徴的な主人公たちの性格、外見、内面、境遇は、それらを生み出した文化的特性に影響を受けています。授業ではそれらの主人公たちについて、みなさんの意見を発表してもらい、それをもとにヒーロー・ヒロインの系譜について論じられるようになります。						
授業計画	第1回 主旨説明 第2回 現代における「ヒーロー」をめぐる映画 第3回 古典作品における「英雄」とその映画作品 第4回 中世における英雄伝説 第5回 近代におけるオカルティズムの流行と「ヒーロー」像の変化 第6回 「ヒーロー」「英雄」の定義の拡大①ダークネスヒーローとは 第7回 「ヒーロー」「英雄」の定義の拡大②スーパーヒーローとは 第8回 「ヒーロー」「英雄」の定義の拡大③「ヒーロー」と似たモチーフ：『ベイマックス』 第9回 「ヒーロー」「英雄」の定義の拡大④新しい「ヒーロー」像 第10回 「ヒーロー」と悲劇：『鉄腕アトム』『ブルートゥ』 第11回 「ヒーロー」の闘いの動機 第12回 少人数の受講であればグループ発表①※20人以上の受講の場合は講義 第13回 少人数の受講であればグループ発表②※20人以上の受講の場合は講義 第14回 まとめ 第15回 テストと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。						
授業方法	講義。						
評価基準と評価方法	テスト70％ 平常点30％						
教科書	なし（プリントを配布します）。						
参考書	特になし。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化ⅣA						
担当教員	押川 かおり						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の文化のターニングポイントである中世の作品『徒然草』を通して、かつての日本の価値観、信仰、芸術を通覧し、現在の日本、あるいは諸外国と比較することで、日本文化の特色を考える。						
授業の概要	『徒然草』を読む。教科書などでなじみのある作品ではあるが、これまで触れなかったであろう深い内容を読み解いていく。また作品を通して、中世という時代の特色、中世に発達した芸能、信仰などについても考えていく。						
到達目標	基本的な作品の分析方法、基礎文献の扱い、解釈鑑賞する上での注意点などの習得。						
授業計画	第 1 回 作品とその時代 第 2 回 『徒然草』のジャンルと作者像 第 3 回 つれづれなる心 序段 作品のスタンス 第 4 回 つれづれなる心 一般的とらえ方と兼好の見解 第 5 回 つれづれなる心 兼好の理想 第 6 回 諸芸 和歌、連歌 第 7 回 諸芸 書 第 8 回 先達はあらまほしき 乗馬 第 9 回 先達はあらまほしき 木登り 第 10 回 先達はあらまほしき 碁・双六 第 11 回 人 男 第 12 回 人 女 第 13 回 人 恋、友 第 14 回 人 故人、家族 第 15 回 まとめ 兼好の視点						
授業外における学習（準備学習の内容）	事前に配布するプリントに目を通し、必要に応じて参考文献、辞書などを活用して調べておく。						
授業方法	各テーマごとに抄段を取り上げて本文を通読、解釈、鑑賞する。学生に、解釈や鑑賞、用例などについて発言を求めることがある。						
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点30%（学習態度）を評価基準とする。						
教科書	講義時にテーマ毎にプリントで配布。						
参考書	初回に参考文献一覧を配布。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化ⅣB						
担当教員	押川 かおり						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化のターニングポイントである中世の作品『徒然草』を通して、かつての日本人の価値観、信仰、芸術などを通覧し、現在の日本、あるいは諸外国との共通点、相違点を見るとき、日本文化の特色を考える。						
授業の概要	『徒然草』を読む。教科書などでなじみのある作品ではあるが、これまで触れなかったであろう深い内容を読み解いていく。卜部兼好（兼好法師）という一人の人物の視点から、中世の一時期を多角的に分析する。						
到達目標	作品を解釈鑑賞する上で必要な基本的な読解、分析方法などを習得する。						
授業計画	第1回 概説 前期の概括 第2回 信仰 第3回 僧侶 崇敬 第4回 僧侶 滑稽 第5回 神祇 第6回 陰陽道 第7回 有職故実 建築 第8回 有職故実 所作 第9回 神楽、雅楽 第10回 興と不興～あはれ～ 第11回 滑稽 第12回 なぞなぞ 第13回 人と人 人と物 第14回 狂気 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で配布するプリントに目を通し、必要に応じて辞書や参考文献を活用して調べる。						
授業方法	本文を通読し、解釈、鑑賞する。適宜、他の文献との比較などもする。学生の積極的な発言を求めることがある。						
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点30%（講義への積極性）をあわせて評価基準とする。						
教科書	テーマごとにプリントで配布。						
参考書	第一回講義時に一覧を配布。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VA						
担当教員	西川 純司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告・広報（PR）活動の理解						
授業の概要	広告・広報（PR）活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告や広報を受け取る側において、それらがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告や広報が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけてられています。この講義では、広告の分類や広告に関わる組織、広告計画、広告関連の法規や規制、広報の多様性など、広告・広報活動を理解するために必要な基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告、広報活動などを見ながら解説していきたいと思います。						
到達目標	・ 広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。 ・ 実際の広告物を専門用語を使って分析できるようになることを目指します。 ・ また、広報活動についても同様に、基礎的な知識を身につけることができます。						
授業計画	1 イントロダクション 2 広告とは何か 3 マーケティングと広告 4 広告主と広告会社 5 広告費 6 広告表現 7 広告媒体 8 ブランド・コミュニケーション 9 広告関連の法規と規制 10 インターネット広告 11 広報（PR）の基本 12 地域社会と広報 13 イベントと広報 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。 日常的に広告を意識するようにしておくと、レポート作成に役立ちます。						
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMなどの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。						
評価基準と評価方法	レポート 70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論 [新版] 』、有斐閣、2008年 日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館、2012年						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	比較文化VB						
担当教員	西川 純司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広告（広報）に関する基礎的な知識の応用						
授業の概要	本講義では、広告（広報）の基礎的な知識をもとに、社会において実際に広告がどのように役立っているのかを多角的に理解しつつ、実際の広告物の制作へとつなげていくことを目指します。まず、映画や空間演出を事例に、そこにおける広告（広報）の役割をさまざまな角度からみていきます。また、トピックごとに広告（広報）を企画することによって、広告制作がどのようなものなのかについて実践的に学びます。これらを踏まえたうえで、最後に、簡単な広告（広報）をつくることに挑戦してもらいます。						
到達目標	・映画や空間演出における広告（広報）の役割について多角的に理解できるようになる。 ・広告（広報）の企画や制作を通じて、情報を取捨選択し、まとめ、自分のアイディアを発信するための力を身につけます。						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 映画と広告（1）：ジブリ映画の広告 3 映画と広告（2）：ジブリ映画と広告代理店 4 映画と広告（3）：製作委員会方式 5 映画と広告（4）：映画広告の企画 6 空間演出と広告（1）：テーマパークと広告／『トウルーマン・ショー』鑑賞 7 空間演出と広告（2）：テーマパークと広告／『トウルーマン・ショー』解説 8 空間演出と広告（3）：ネット時代の空間演出 9 空間演出と広告（4）：空間演出の企画 10 広告をつくる（1）：広告の表現方法を学ぶ 11 広告をつくる（2）：広告のコンセプトを決める 12 広告をつくる（3）：広告の表現方法を決める 13 広告をつくる（4）：広告を完成させる 14 制作課題の発表 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。日常的に広告を意識するようしておくこと、制作課題や広告企画に役立ちます。						
授業方法	講義を中心としますが、実際の広告（広報）や映画などの映像を観るほか、グループワークを通じて広告を企画する機会も設けます。						
評価基準と評価方法	制作課題 50%、広告企画 20%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	美術の基礎						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	美術の歴史や技法の基礎的な知識に触れる。						
授業の概要	美術とはどんなもの？何のためのもの？改めて問われると、わたしたちは意外に美術について知らないことに気づく。この授業では、美術の歴史や技法の基礎的な知識に触れ、それぞれの美術観を養うことを目指す。						
到達目標	美術作品を通して、その歴史や文化、技術について考え、そこに関わる社会的・思想的背景を感じ取ろうとする姿勢を養う。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 輪郭を取る 第3回 架空の生き物 1 -実在しないものについてイメージを膨らます- 第4回 架空の生き物 2 -触覚を意識する- 第5回 架空の生き物 3 -イメージをかたちにする- 第6回 デッサン 1 -見ることの不思議- 第7回 デッサン 2 -目と手をつなぐ- 第8回 デッサン 3 -空間について- 第9回 何かを伝える 1 -視覚的要素で意味を伝える- 第10回 何かを伝える 2 -絵画文法？- 第11回 わたしと世界 1 -わたしをとりまくもの- 第12回 わたしと世界 2 -自然と人工- 第13回 わたしと世界 3 -世界の感触- 第14回 わたしと世界 4 -わたしというもの- 第15回 まとめと展望 -美術について-						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみることを。 また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみることを。 授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める。 スライド、DVDなどの使用。希望により学外演習なども含む。 個人もしくはグループ単位での発表や、コンピュータ室での作業もあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文学の基礎						
担当教員	東野 泰子・武田 悠希						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の古典文学を現代的な視点から読むことを通して、文学を読むための着眼点にどのようなものがあるかを考える。 【後半（8回目以降）】後半は、江戸時代から現代にかけての日本文学の流れを概観する。						
授業の概要	現代において、新たに生み出されるさまざまな日本の文化・文芸には、古典文学を発想の源としているものが少なくない。日本の古典文学の主要作品の幾つかを読み解くことによって、現代の文芸に影響を与え続けている古典文学の特性について考える。さらに、文学作品を漫然と読むのではなく、話形・話者といった観点から分析することを試みる。 【後半（8回目以降）】近世以降の日本文学史を概観することで、日本の文化・文芸を理解するために必要となる基礎的な知識や視点の習得を目的とする。文学史だけでなく、背景となった歴史や異文化の受容なども学ぶ。						
到達目標	日本の主要な古典文学作品について、基礎的な事項を説明することができる。 古典文学作品が現代の日本文化にどのような影響を与えているか、考えを述べるることができる。 【後半（8回目以降）】 近世以降の日本の文学を読解するために必要な知識や視点を知り、興味・関心をより具体的なものとして意識することができる。 近世以降の文学史の背景と流れを授業で紹介する視点に添って説明することができる。						
授業計画	第1回：物語を読み解く視点について 昔話の源流 1－浦島太郎 第2回：昔話の源流 2－かぐや姫 第3回：貴種流離譚 1－ヤマトタケル 第4回：貴種流離譚 2－在原業平 第5回：貴種流離譚 3－光源氏 第6回：物語の語り手 1－伊勢物語・土佐日記 第7回：物語の語り手 2－源氏物語・平家物語 【以下、後半】 第8回 近世から近代にかけての日本文学への視点と導入 第9回 絵入小説の系譜 草双紙 明治期戯作 第10回 明治以降の雑誌文化 博文館 第11回 社会主義と検閲 第12回 外地と文学 第13回 現代文学への視点 女性作家 メディアミックス 第14回 8回以降のまとめと筆記試験 第15回 8回以降の総括						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内容や自分なりの疑問点を授業後にまとめておく。 また、調べてきて欲しいこと（辞書を引く等）を授業中に指示する場合がある。 それらについて、毎時、授業のはじめに書いて提出してもらう。 【後半（8回目以降）】近世から現代までの流れを概観するため、授業で取り上げる作品や事柄はおのずと限られてくる。したがって講義内容についての理解をより深めるためには、授業中に紹介した参考文献を授業後に参照するなど、授業外の学習が求められる。						
授業方法	おもに講義形式をとる。 ほぼ毎時、前回授業のまとめや小テストを課す。 【後半（8回目以降）】講義形式で行う。毎回コメントシートの提出を課す。						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、まとめの提出、小テスト）60% 期末レポート40% 【後半（8回目以降）】日常的な授業に対する取組状況等の評価60%、筆記試験40%で評価する。						
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。 ※後半（8回目以降）も同様。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読ⅠA						
担当教員	打田 素之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画の鑑賞と分析の方法を学ぶ。						
授業の概要	小林秀雄の近代絵画を論じた文芸評論を、発表形式で精読する。						
到達目標	フランス印象派の絵画とその魅力について説明できる。 ピカソの絵画とその魅力について説明できる。						
授業計画	1. 導入と授業計画、発表者の決定 2. 発表例の提示：評論「モネ」（1）光 3. 同 （2）自然 4. 発表1：評論「セザンヌ」（1）音楽 5. 2：同 （2）自然 6. 3：同 （3）光 7. 4：同 （4）色彩 8. 5：評論「ゴッホ」（1）狂気 9. 6：同 （2）人生 10. 7：同 （3）色彩 11. 8：評論「ピカソ」（1）個性 12. 9：同 （2）個性 13. 10：同 （3）感覚 14. 11：同 （4）フォルム 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示する。						
授業方法	教員が発表例を提示した後（1回～3回）、参加者の発表に移る（単独、またはグループ）。授業は発表者の資料を基に、質疑応答形式で行う。						
評価基準と評価方法	平常点56％、発表点44％						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読ⅠB						
担当教員	打田 素之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸批評を通して、絵画と音楽の鑑賞法を学ぶ。						
授業の概要	小林秀雄の南画とモーツァルトの音楽を論じた文芸評論を、発表形式で精読する。						
到達目標	モーツァルトの音楽とその魅力について説明できる。 南画の歴史とその魅力について説明できる。 雪舟の絵画とその魅力について説明できる。						
授業計画	1. 導入と授業計画、発表者の決定 2. 発表例の提示：評論「偶像崇拜」（1）来迎図 3. 同 （2）美術品と歴史 4. 発表1：評論「モーツァルト」（1）ゲエテ 5. 2：同 （2）雄弁 6. 3：同 （3）スタンダール 7. 4：同 （4）天才 8. 5：評論「鉄斎」（1）風景画 9. 6：同 （2）自在 10. 7：同 （3）色彩 11. 8：評論「光悦と宗達」（1）形式 12. 9：同 （2）写実 13. 10：評論「雪舟」（1）自然 14. 11：同 （2）禅 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示する。						
授業方法	教員が発表例を提示した後（1回～3回）、参加者の発表に移る（単独、またはグループ）。授業は発表者の資料を基に、質疑応答形式で行う。						
評価基準と評価方法	平常点56％、発表点44％						
教科書	小林秀雄『モーツァルト・無常ということ』、新潮文庫、ISBN978-4-10-100704-5						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読ⅡA						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『シラノ・ド・ベルジュラック』を読む						
授業の概要	19世紀末フランスの耽美主義と古典的教養を融合させて、文学史上最大の人気者「鼻のシラノ」を生み出した、ロマンチック・ラブの最高傑作『シラノ・ド・ベルジュラック』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、時代背景、古典の影響など、多様な観点から批判的に読解する。						
到達目標	①テキストの漢字や語彙を学んで、文意を正しく把握し、上手に音読・朗読できるようになる。 ②テキストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの筋の通った分析や批評の文章が書けるようになる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション（授業の受け方、出席要件、評価方法、テキスト概説） 第2回 第一幕前半講読 第3回 第一幕後半講読、映画ビデオ（第一幕相当部分） 第4回 第二幕前半講読、第一幕漢字読み取りテスト 第5回 第二幕後半講読、映画ビデオ（第二幕相当部分） 第6回 第三幕前半講読、第二幕漢字読み取りテスト 第7回 第三幕後半講読、映画ビデオ（第三幕相当部分） 第8回 第四幕前半講読、第三幕漢字読み取りテスト 第9回 第四幕後半講読、映画ビデオ（第四幕相当部分） 第10回 第五幕前半講読、第四幕漢字読み取りテスト 第11回 第五幕後半講読、映画ビデオ（第五幕相当部分） 第12回 レポートの課題と書き方、第五幕漢字読み取りテスト 第13回 『シラノ』のロマンチック・ラブについて 第14回 シラノとソクラテス 第15回 まとめと展望、期末レポート提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で講読するテキストの範囲を授業までに辞書等を調べながら読んで、疑問点を整理してくる必要がある。						
授業方法	講読、教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら一緒に読んでゆく。1幕ごとに漢字の読み取りテストをし、映画『シラノ・ド・ベルジュラック』の対応箇所を観る。						
評価基準と評価方法	授業への参加度、準備学習、音読・朗読、漢字テストの点数等による到達目標①の評価50％ 期末レポートによる到達目標②の評価50％ 。						
教科書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（岩波文庫） エドモン・ロスタン著、鈴木信太郎・辰野隆訳						
参考書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（光文社古典新訳文庫） ロスタン著、渡辺守章訳						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読ⅡB						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	エウリピデスの悲劇『メディア』を読む						
授業の概要	ギリシア古典期の三大悲劇作家のうち、後世もっとも人気のあったエウリピデスの現存作品のうち、映画に舞台にと現代人に対してもとりわけ強烈な訴求力をもつ『メディア』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、神話的背景等の多様な観点から批判的に読解する。『メディア』読了後、同じ教科書に収載されている『イオン』を読む。						
到達目標	テキストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの筋の通った分析や批評の文章を書くことができるようになる。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション（テキストおよびギリシア悲劇について、DVD『メディア』） 第2回 プロロゴスとパロドス 第3回 第1エペイソディオン、第1スタシモン 第4回 第2エペイソディオン、第2スタシモン 第5回 第3エペイソディオン、第3スタシモン、小レポート。 第6回 第4エペイソディオン、第4スタシモン 第7回 第5エペイソディオン、第5スタシモン 第8回 第6エペイソディオン、第6スタシモン 第9回 エクソドス 第10回 レポートの課題と考察の観点について ・メディアはなぜ子殺しをしなければならなかったのか、あるいは殺したのか？ 第11回 レポートの課題と考察の観点について ・『メディア』のエクソドス 第12回 『イオン』を読む：プロロゴスとパロドス 第13回 『イオン』を読む：エペイソディオン1～2 第14回 『イオン』を読む：エペイソディオン3～5 第15回 『イオン』を読む：エクソドス、まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で読むテキストをあらかじめ自分でよく読んで疑問点を整理し、授業後にも読み返す、参考文献を読むなどの予習復習が必要。						
授業方法	講読。教員による質問、解説、問題点の指摘、受講生同士のディスカッションなどを交えながら、一緒に読んでゆく。						
評価基準と評価方法	予習・復習の状況、テキストの音読、受講生同士および教員とのディスカッションなど授業への参加度40%、学期末レポートの出来具合60%で評価する。						
教科書	『ギリシア悲劇Ⅲ』（ちくま文庫） エウリピデス著、松平千秋他訳、筑摩書房						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VA						
担当教員	西川 純司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	映画の宣伝・広告戦略						
授業の概要	本講義では、スタジオジブリの映画プロデューサーである鈴木敏夫による宣伝・広告の仕事を中心にみることで、日本のアニメーション映画がどのようにヒットを生み出し続けてこられたのかを考えます。なぜスタジオジブリは『風の谷のナウシカ』や『もののけ姫』、『千と千尋の神隠し』などのヒット作を生み出すことができたのか。講義では、それをクリエイターだけでなくプロデューサーや映画会社、広告会社、出版社、テレビ局などの協働による結果として分析していきます。そのなかでも、とりわけ宣伝・広告戦略という点に着目してみること、ヒットを生むための宣伝・広告を考えます。						
到達目標	・映画作品をクリエイターやプロデューサー、映画会社、広告会社、出版社、テレビ局などによる協働の産物として分析する視点を身につけます。 ・成功する宣伝・広告を考える力を養います。						
授業計画	1 イン트로ダクション／発表者の割り当て 2 『仕事道楽』 第1章 3 第2章 4 第3章 5 第4章 6 第5章 7 第6章 8 第7章 9 第8章 10 『ジブリの仲間たち』 第1章 11 第2章 12 第3章 13 第4章 14 第5章 15 第6章 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる範囲をあらかじめ読んでおく必要があります。また、授業後にも復習して内容を再確認してほしいと思います。						
授業方法	演習。教員による解説、受講生による発表やディスカッション。						
評価基準と評価方法	発表40%、平常点（授業での発言や貢献度）60%、で評価します。						
教科書	鈴木敏夫、『仕事道楽 新版 スタジオジブリの現場』、岩波書店、2014年 鈴木敏夫、『ジブリの仲間たち』、新潮社、2016年						
参考書	スタジオジブリ責任編集、『ナウシカの「新聞広告」って見たことがありますか。—ジブリの新聞広告18年史』、徳間書店、2002年						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VB						
担当教員	西川 純司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品を分析する視座を学ぶ						
授業の概要	本講義では、テキストを講読しながら、文芸作品をより豊かに理解し分析するためのいくつかの視座を学びます。はじめに、『桃太郎』などの昔話の事例を通して、物語の構造分析という分析手法を詳しくみていきます。その後、やはり具体的な事例から、文学作品を分析するためのいくつかの手法を理解し、さまざまな読みの可能性があることを学びます。こうした分析手法は、文学作品だけでなく映画やアニメ、マンガなど広く文芸作品全般に応用できることを理解してもらいたいと思います。						
到達目標	文芸作品（文学作品や映画、アニメ、マンガなど）を分析するためのいくつかの視座を身につけることができます。						
授業計画	1 イントロダクション／発表者の割り当て 2 『だれが幸運をつかむのか』第1章 3 第2章 4 第3章 5 第4章 6 終章 7 『超入門！現代文学理論講座』第1章 8 第1章解説 9 第2章 10 第2章解説 11 第3章 12 第3章解説 13 第4章 14 第4章解説 15 まとめ ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で取り上げる範囲をあらかじめ読んでおく必要があります。 また、授業後にも復習して内容を再確認してほしいと思います。						
授業方法	演習。教員による解説、受講生による発表やディスカッション。						
評価基準と評価方法	発表40%、平常点（授業での発言や貢献度）60%、で評価します。						
教科書	亀井秀雄監修、『超入門！現代文学理論講座』、筑摩書房、2015年 山泰幸、『だれが幸運をつかむのか 一昔話に描かれた「贈与」の秘密』、筑摩書房、2015年						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読ⅥA						
担当教員	枅井 智英						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	上演に結びつけて戯曲を読む力をつける。						
授業の概要	日本の代表的劇作家井上ひさしの『天保十二年のシェイクスピア』を読む。井上ひでのり演出作品（2002年）と蜷川幸雄演出作品（2005年）を映像記録から比較しながら、場面ごとに戯曲を分析分析し、舞台演出や俳優の演技、そして舞台美術など実際の舞台上演でどのように具現化されているのかを学ぶ。また、戯曲から読み取れるテーマを舞台上演ではどのように演出しているかも考察する。						
到達目標	舞台上演を前提とした戯曲の特徴についての理解を深め、上演分析をするための基礎的能力を養う。						
授業計画	1. 作品の背景とその内容 2. 戯曲にある約束事 3. 第1幕1～2とその上演形式 4. 第1幕3～4とその上演形式 5. 第1幕5～7とその上演形式 6. 第1幕8～11とその上演形式 7. 第1幕12～13とその上演形式 8. 第2幕14～15とその上演形式 9. 第2幕16～17とその上演形式 10. 第2幕18～19とその上演形式 11. 第2幕20～21 12. まとめ①象徴としての人物 13. まとめ②劇におけるサスペンス 14. まとめ③言葉をアクションに 15. まとめ④テーマと批評						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストの予習						
授業方法	講義を中心に、ビデオを鑑賞しディスカッションも行う。						
評価基準と評価方法	授業におけるディスカッションへの参加度やレポート（50％）期末のレポート（50％）						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読VIB						
担当教員	栢井 智英						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	戯曲の作劇術を俳優の演技という視点から考える。(レジナルド・ローズ『12人の怒れる男』の作劇術と演技について)						
授業の概要	舞台『12人の怒れる男』の舞台上演台本は、映画『12人の怒れる男』のシナリオを基に構成されている。このクラスでは、1957年製作の映画版を中心に俳優の演技(行動)分析から、どのように人物の性格が読み解けるか検証し、さらには作品のテーマの一つである「民主主義制度」という視点から、冷戦中に製作された1957年版と冷戦後に製作された1997年版を比較し、その相違を考察する。						
到達目標	戯曲分析や上演分析を俳優の演技という視点から行う基礎能力を身につける。						
授業計画	1. 作品をその背景 2. 映画作品と戯曲について 3. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。① 作品解説とビデオ鑑賞 4. 映画『12人の怒れる男』(1957年版)を見る。② ビデオを見て事件の詳細について情報収集 5. 演技を考える:与えられた状況(演じる役) 6. 演技を考える:与えられた状況(演技する環境) 7. 演技を考える:キャラクター分析と内容理解① スイッチナイフに関する討論場面より 8. 演技を考える:キャラクター分析と内容理解② トイレ休憩の場面より7番と8番を中心に 9. 演技を考える:キャラクター分析と内容理解③ 前半の2番、5番、11番を中心に 10. 物語の展開と作品の背景について 11. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)の特徴と時代背景 12. 映画『12人の怒れる男』(1997年版)を見る。 13. 1957年版と1997年版の登場人物の比較① 11番の比較 14. 1957年版と1997年版の登場人物の比較② 2番、4番、7番を中心に 15. まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	テキストの予習、レポートの作成。						
授業方法	ビデオ鑑賞と講義が中心。演技の分析ワークも行う。						
評価基準と評価方法	授業の平常点(40%) 期末レポート(60%)						
教科書	適宜プリントを配布。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読ⅢⅠA						
担当教員	平川 大作						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	西洋文芸と映画 『フランケンシュタイン』から『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』へ						
授業の概要	フィリップ・K・ディック（1928生／1982没）は現代SFを代表するアメリカ作家で、その独特な主題や未来像は、現在にいたるまで多くの後進に影響を与え続けている。本講義では長編小説『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』（1982）の講読を軸に、それを原作にした映画『ブレード・ランナー』（1968）を参照しながら、悪夢的な想像世界で描出される諸問題について考えたい。SF、サスペンス、多次元、人造人間、探偵に関心のあるひとに受講を勧めます。						
到達目標	文学テキストの読解。その映像化で生じる諸問題の理解。						
授業計画	第1回：単位認定の説明、ディック以前のSF小説について 第2回：作家の生涯と作品、ディックの短編 第3回：映画『ブレード・ランナー』Ⅰ 映画鑑賞前半 第4回：映画『ブレード・ランナー』Ⅱ 映画鑑賞後半 第5回：映画『ブレード・ランナー』Ⅲ ふりかえり 第6回：小説『アンドロイドは・・・』輪読Ⅰ 未来像 第7回：輪読Ⅱ 未来のテクノロジー 第8回：輪読Ⅲ キャラクター 第9回：輪読Ⅳ プロット 第10回：輪読Ⅴ 話法 第11回：輪読Ⅵ 幻覚 アメリカ西海岸の精神世界 第12回：輪読Ⅶ 全体のふりかえり 第13回：小説『フランケンシュタイン』 第14回：映画『フランケンシュタイン』 第15回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分で小説を読んでおくこと。関連のありそうな小説／映画／マンガ／アニメなどの鑑賞を推奨します。						
授業方法	担当を決めた輪読やディスカッションをメインとした講義						
評価基準と評価方法	各授業での発言／発表60%、学期末レポート30%、ボーナス評価10%。						
教科書	フィリップ・K・ディック、浅倉久志訳『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』（ハヤカワ文庫SF）						
参考書	ディックの諸作品、メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸講読ⅡIB						
担当教員	石塚 洋史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	原作のある日本の映画作品の鑑賞と、その原作の検討を通して、映画と文芸の表現の違いについて考察します。						
授業の概要	今日まで膨大な量の日本映画が製作されてきました。その中には文学作品を原作としているものも少なくありません。 文学作品が映画化された際、その文学作品の内容が全て映像となるわけではなく、またその文学作品にない要素が映画の中に加えられることもあります。そしてそれ以上に重要なのは、語り方そのものの変化です。文学作品の語り口にも、映画が及ばないことは少なくありません。しかし時には映画は文学作品とは別次元の表現によって、観客の心を捉えます。 本講義では原作のある日本の映画作品を鑑賞し、原作との比較を行います。特に映画ならではの表現の理解に重点を置きます。						
到達目標	映画作品を分析的に鑑賞する能力を育成します。 映画作品とその原作を比較し、両者の表現の違いを理解し、芸術に関する視野を拡大させます。						
授業計画	第1回：視点と話法1 映画の技法 第2回：視点と話法2 映画の構成 第3回：視点と話法3 原作との比較 第4回：社会の描き方1-1 映画の技法 第5回：社会の描き方1-2 映画の構成 第6回：社会の描き方1-3 原作との比較 第7回：社会の描き方2-1 映画の技法 第8回：社会の描き方2-2 映画の構成 第9回：社会の描き方2-3 原作との比較 第10回：台詞と動き1 映画の技法 第11回：台詞と動き2 映画の構成 第12回：台詞と動き3 原作との比較 第13回：家族の描き方1 映画の技法 第14回：家族の描き方2 映画の構成 第15回：家族の描き方3 原作との比較						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業内に鑑賞した映画は、自分なりに疑問点、注目点をまとめ、次回の授業に備えてください。 授業内に鑑賞した映画の原作を読むようにして下さい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点（授業内に提出するレポート）50%、期末レポート50%。						
教科書	使用しません。						
参考書	授業内に適宜紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習Ⅰ						
担当教員	打田 素之						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	精神分析学の方法を通して日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	前期は、アニメ、映画の諸作を性差と享楽の観点から分析する。 後期は、卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	現代日本社会の文化現象を説明することができる。						
授業計画	前期 1. 導入と授業計画の説明 2. ディズニー・プリンセス3部作について 3. プリンセス3部作と母子融合の問題 4. エディプス・コンプレックスと母子融合の関係 5. 鶴弥南北の四谷怪談 6. 忠臣蔵と四谷怪談映画の関係 7. セーラームーンの社会学 (1) 8. " (2) 9. メロドラマ研究 (1) 10. " (2) 11. 『ローマの休日』分析 (1) 12. " (2) 13. 映画観客論 (1) 14. " (2) 15. まとめとテスト 後期 1. 夏休みの課題報告 2. 発表例の提示 (1) 3. " (2) 4. " (3) 5. 参加者の発表 (1) 6. " (2) 7. " (3) 8. " (4) 9. " (5) 10. " (6) 11. " (7) 12. " (8) 13. " (9) 14. " (10) 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点56%、テスト44%						
教科書	プリントを配布						

参考書	授業中に指示する。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習II						
担当教員	枅井 智英						
学期	通年／Full Year	曜日・時間	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	演劇学にかかわる様々な要素の理解とジェンダーの視点による上演分析について理解を深める。						
授業の概要	秋に上演されるミュージカル『ビリー・エリオット』（2005年）を題材に、舞台の上演要素や技術について理解を深める。前期は、ミュージカルの原作となる映画の『リトル・ダンサー（ビリー・エリオット）』（2000年）をジェンダーの視点から分析し、ミュージカル『ビリー・エリオット』						
到達目標	演劇や映像作品の批評能力を高め、卒論に向けたテーマ設定ができるようになる。						
授業計画	1. イントロダクション 2. ミュージカルというジャンルについて。① 3. ミュージカルというジャンルについて。② 4. 映画『リトルダンサー』の観賞。 5. 映画『リトルダンサー』の分析：ジェンダーの視点から。① 6. 映画『リトルダンサー』の分析：ジェンダーの視点から。② 7. 映画『リトルダンサー』の分析：ジェンダーの視点から。③ 8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。 9. 観劇実習 10. 観劇した作品の批評（ジェンダーの視点から） 11. ミュージカル『リトルダンサー』と映画『リトルダンサー』の比較：物語 12. ミュージカル『リトルダンサー』と映画『リトルダンサー』の比較：衣装と美術 13. ミュージカル『リトルダンサー』と映画『リトルダンサー』の比較：歌と踊り① 14. ミュージカル『リトルダンサー』と映画『リトルダンサー』の比較：歌と踊り② 15. 前期のまとめ 16. 後期イントロダクション 17～20. 4年生による卒論についての中間発表 22. 観劇実習にむけて 23. 観劇実習（『ビリー・エリオット』を予定） 24. 観劇した作品の批評 25～29. 3年生の発表（戯曲や論文、または映像作品について） 30. まとめ ※観劇実習の時期は、変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に与えられたテキストや指示した文献をしっかりと精読しておく。 個人発表の準備						
授業方法	講義形式または学生による個人発表とディスカッション 学外研修あり						
評価基準と評価方法	授業への参加（出席日数とグループワーク等の課題提出）を50%、個人発表とレポートを50%として評価する。						
教科書							
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第1演習V						
担当教員	西川 純司						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	メディア文化の社会学						
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット）、文芸、サブカル（漫画やアニメ）、広報・広告、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればゼミプロジェクトやフィールドワークを行います。						
到達目標	・メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。 ・さまざまな先行研究を読み解きながら、研究を遂行するための技法を習得します。						
授業計画	前期 1 インタロタクション／テキスト選定、発表者割り当て 2～4 テキスト講読 5～8 4回生による研究発表とディスカッション 9～14 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション 15 まとめ 後期 16 インタロタクション／テキスト選定、発表者割り当て、ゼミプロジェクトの企画 17～23 4回生による研究発表とディスカッション 24～29 ゼミプロジェクト 30 まとめ ・テキストは、初回に教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	全員が事前にテキストに目を通して、自分の考えや疑問を整理したうえで授業に出席してもらいます。また、自分が発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで内容をまとめるなど、準備をしっかりとしてもらいます。 その他、ゼミプロジェクトの準備など。						
授業方法	演習。テキストの要約発表、個人発表、ディスカッションを中心とします。						
評価基準と評価方法	発表50%、平常点（出席・討議への参加度）50%、で評価します。						
教科書	授業中に指定します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅰ						
担当教員	宗像 衣子						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	文芸・芸術の創造性と文化の諸相						
授業の概要	文芸をめぐる諸問題を、主に以下の視点から考究してゆく。 分野：言語・文学 ― 芸術（美術系・音楽系・複合系[演劇・映像等]） ― 社会・思想・文化 時代：近代（18・19世紀）― 現代（20・21世紀）を軸に 地域：フランスを中心に西洋・アメリカ―東洋・日本 ここから広がる関連領域にどのような研究テーマの可能性があるかを紹介し、数例の考察を経験した上で、出席者が各々探究を深めている事柄を手掛かりに研究発表を試みてゆく。全員でそれを検討することによって、種々の研究内容・方法を学び、関連資料に接しながら、全員がこの研究領域におけるおもしろさや繋がりに親しみ、味わい、見極めて、自らの研究課題を発掘し見直しつつ、より豊かな地平から探究してゆくことを目指す。						
到達目標	自分自身の身近な興味関心から出発し、言語文献を読むだけでなく、視聴覚資料も見たり聞いたりしながら、古今東西における世界の文芸の表現や表現媒体から様々な「見方・感じ方」に触れて、関心や意識・知識を充実させ、広い視野を開拓してほしい。 出席者皆の多様な感性・知性を互いに知り、重ね、繋がりを見つけることで、思いもかけない楽しみをもって、自分自身が広がり深まり変わるよろこびを発見できる。 このようにして、ゼミ演習本来のあり方によって、その価値を享受することができる。						
授業計画	受講生（2016年度ゼミ3年生から継続の2017年度ゼミ4年生）各人の研究テーマ（継続および新規について未定。4月の授業初回日までに各自が反省検討するよう指導済み）にしたがって、ゼミ演習および関連研究として企画され、運営・進行される。 以下、この授業の性質上、受講生の状況等によって修正されることがある。 前期 1回 ゼミ演習オリエンテーション 2～12回 各学生による研究発表と討論および関連研究（順序は、初回時に、学生の学修内容により決定） 13～15回 補足討議・関連資料研究・まとめ 見学授業を含む場合がある 後期 16回 ゼミ演習ガイダンス 17～25回 各学生による展開研究の発表と討議（順序は、前期最終回に、学生の修得事情により決定） 26～30回 補足討議・関連資料研究・まとめ 見学授業を含む場合がある						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次の発表について、用意されたレジュメによって、各自のテーマに即して予習しておくこと。（目安とする学習時間：1時間） 授業後学習：当日の発表と質疑応答や資料研究を振り返り、各自のテーマに関連づけて復習しておくこと。（目安とする学習時間：1時間）						
授業方法	発表と討議と資料検討による演習（演習内容に即した講義を含む）						
評価基準と評価方法	平常点80%（各回提出のリアクションペーパー）、レポート等20%（折々提出するまとめ等）						
教科書	授業内容に即した各種資料や参考書を配付・紹介する。						
参考書	日本の風景・西欧の景観 A. ベルク著 篠田勝英訳（講談社）						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅱ						
担当教員	枡井 智英						
学期	通年／Full Year	曜日・時間	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	演劇学にかかわる様々な要素の理解とジェンダーの視点による上演分析について理解を深める。						
授業の概要	秋に上演されるミュージカル『ビリー・エリオット』（2005年）を題材に、舞台の上演要素や技術について理解を深める。前期は、ミュージカルの原作となる映画の『リトル・ダンサー（ビリー・エリオット）』（2000年）をジェンダーの視点から分析し、ミュージカル『ビリー・エリオット』						
到達目標	演劇や映像作品の批評能力を高め、卒論に向けたテーマ設定ができるようになる。						
授業計画	1. イントロダクション 2. ミュージカルというジャンルについて。① 3. ミュージカルというジャンルについて。② 4. 映画『リトルダンサー』の観賞。 5. 映画『リトルダンサー』の分析：ジェンダーの視点から。① 6. 映画『リトルダンサー』の分析：ジェンダーの視点から。② 7. 映画『リトルダンサー』の分析：ジェンダーの視点から。③ 8. 観劇実習に向けて：作品と劇団についての紹介。 9. 観劇実習 10. 観劇した作品の批評（ジェンダーの視点から） 11. ミュージカル『リトルダンサー』と映画『リトルダンサー』の比較：物語 12. ミュージカル『リトルダンサー』と映画『リトルダンサー』の比較：衣装と美術 13. ミュージカル『リトルダンサー』と映画『リトルダンサー』の比較：歌と踊り① 14. ミュージカル『リトルダンサー』と映画『リトルダンサー』の比較：歌と踊り② 15. 前期のまとめ 16. 後期イントロダクション 17～20. 4年生による卒論についての中間発表 22. 観劇実習にむけて 23. 観劇実習（『ビリー・エリオット』を予定） 24. 観劇した作品の批評 25～29. 3年生の発表（戯曲や論文、または映像作品について） 30. まとめ ※観劇実習の時期は、変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前に与えられたテキストや指示した文献をしっかりと精読しておく。 個人発表の準備						
授業方法	講義形式または学生による個人発表とディスカッション 学外研修あり						
評価基準と評価方法	授業への参加（出席日数とグループワーク等の課題提出）を50%、個人発表とレポートを50%として評価する。						
教科書							
参考書	佐和田敬司、藤原慎太郎、冬木ひろみ、丸本隆、八木斉子（編）『演劇学のキーワード』ペリかん社、2007						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅲ						
担当教員	山田 道夫						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	神話と悲劇のヒーロー像、ヒロイン像をさぐる						
授業の概要	ギリシア神話や日本の神話のさまざまなトピックを比較文学的、文芸批評的に考察する。取り扱う主要なテキストはホメロス、ギリシア悲劇、古事記など。前期はソボクレス劇のなかでどのようなヒーロー像、ヒロイン像が造型されているかを、その情念や規範意識に着目して調べてゆく。後期はそれらと比較対照させながら、古事記やエウリピデスに考察の範囲を広げる。古代の文芸における悲劇的人間像をさぐってゆくという作業を通じて、さまざまな文芸テキストを相互に比較して多面的に考察する力、自分なりの解釈や批評を整合的に組み立てる力を養うのが授業の目的である。						
到達目標	古代の文芸におけるヒーローやヒロインの姿をさぐってゆくという作業を通して、さまざまな文芸テキストを深く、また相互に比較して多面的に考察し、自分なりの筋の通った解釈や批評を組み立てることができるようになる。						
授業計画	前期 第1回 イン트로ダクション、テキスト・参考文献概説 第2回 『オイディプス王』を読む(1) 第3回 『オイディプス王』を読む(2) 第4回 『コロノスのオイディプス』を読む(1) 第5回 『コロノスのオイディプス』を読む(2) 第6回 『コロノスのオイディプス』を読む(3) 第7回 『アイアス』を読む(1) 第8回 『アイアス』を読む(2) 第9回 『トラキスの女たち』を読む(1) 第10回 『トラキスの女たち』を読む(2) 第11回 『アンティゴネー』を読む(1) 第12回 『アンティゴネー』を読む(2) 第13回 受講生による調査発表とディスカッション(1) 第14回 受講生による調査発表とディスカッション(2) 第15回 まとめと展望、レポート課題の説明 後期 第1回 『古事記』の英雄と女たち(1)スサノオ、前期レポート提出 第2回 『古事記』の英雄と女たち(2)オオクニヌシ 第3回 『古事記』の英雄と女たち(3)ヤマトタケル 第4回 『古事記』の英雄と女たち(4)ヤマトタケル 第5回 『トロイアの女たち』を読む(1) 第6回 『トロイアの女たち』を読む(2) 第7回 『アンドロマケー』を読む(1) 第8回 『アンドロマケー』を読む(2) 第9回 アンドロマケーとペネロペイア(1) 第10回 アンドロマケーとペネロペイア(2) 第11回 ギリシアの貞女と日本の貞女 第12回 受講生による調査発表とディスカッション(1) 第13回 受講生による調査発表とディスカッション(2) 第14回 受講生による調査発表とディスカッション(3) 第15回 まとめと展望、後期レポート提出						
授業外における学習(準備学習の内容)	シラバスを見て、各回の授業で取り上げるテキストや参考文献をあらかじめよく読み、問題点を整理しておくこと。						
授業方法	演習。あらかじめ自分で拾い出した問題点とそれについての解釈を提起しあい、議論する。受講生は前期・後期にそれぞれ一度ずつ発表する。						
評価基準と評価方法	準備学習と授業への参加度、取り組みかたなどの平常点50%、学期末のレポート50%で評価する。						
教科書	授業時に指示する						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習Ⅳ						
担当教員	打田 素之						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	心理学と精神分析学の方法を通して日本社会の文化現象を探る。						
授業の概要	前期は、アニメ、映画の諸作を性差と享楽の観点から分析する。 後期は、卒論作成を視野に入れた参加者の発表を中心に、質疑応答形式の授業を行う。						
到達目標	現代日本社会の文化現象を説明することができる。						
授業計画	前期 1. 導入と授業計画の説明 2. ディズニー・プリンセス3部作について 3. プリンセス3部作と母子融合の問題 4. エディプス・コンプレックスと母子融合の関係 5. 鶴弥南北の四谷怪談 6. 忠臣蔵と四谷怪談映画の関係 7. セーラー月夜の社会学 (1) 8. " (2) 9. メロドラマ研究 (1) 10. " (2) 11. 『ローマの休日』分析 (1) 12. " (2) 13. 映画観客論 (1) 14. " (2) 15. まとめとテスト 後期 1. 夏休みの課題報告 2. 発表例の提示 (1) 3. " (2) 4. " (3) 5. 参加者の発表 (1) 6. " (2) 7. " (3) 8. " (4) 9. " (5) 10. " (6) 11. " (7) 12. " (8) 13. " (9) 14. " (10) 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時に指示する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点56%、テスト44%						
教科書	プリントを配布						

参考書	授業中に指示する。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸第2演習V						
担当教員	西川 純司						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	メディア文化の社会学						
授業の概要	メディア（出版やテレビ、ネット）、文芸、サブカル（漫画やアニメ）、広報・広告、都市文化などのさまざまな社会現象から、私たちが生きている現代社会のありようや問題点を探ります。そのために、先行研究を参照することで、こうした社会現象から現代社会についての問いを立て、調べ、分析するための視点や方法について学びます。そうして、身近なメディア現象をより広い社会的文脈（メンタリティー、文化、メディア環境、社会制度）や社会的要因（ジェンダー、年齢、階層）と関連づけて考察できるようになることが、この演習のねらいです。前期は、全員でテキストを講読したあと、受講生による発表をします。後期は、やはり受講生による発表を中心に、可能であればゼミプロジェクトやフィールドワークを行います。						
到達目標	・メディアに関連するさまざまな社会現象を切り口に、現代社会のありようや問題点を考えることができるようになります。 ・さまざまな先行研究を読み解きながら、研究を遂行するための技法を習得します。						
授業計画	前期 1 インタロタクション／テキスト選定、発表者割り当て 2～4 テキスト講読 5～8 4回生による研究発表とディスカッション 9～14 3回生によるテキストの要約発表とディスカッション 15 まとめ 後期 16 インタロタクション／テキスト選定、発表者割り当て、ゼミプロジェクトの企画 17～23 4回生による研究発表とディスカッション 24～29 ゼミプロジェクト 30 まとめ ・テキストは、初回に教員が提示するリストから一緒に選びます。 ・なお、受講生の人数や授業の進展にあわせて内容を変更する可能性があります。						
授業外における学習（準備学習の内容）	全員が事前にテキストに目を通して、自分の考えや疑問を整理したうえで授業に出席してもらいます。また、自分が発表を担当するときは、テキストのほか参考文献にも目を通したうえで内容をまとめるなど、準備をしっかりとしてもらいます。 その他、ゼミプロジェクトの準備など。						
授業方法	演習。テキストの要約発表、個人発表、ディスカッションを中心とします。						
評価基準と評価方法	発表50%、平常点（出席・討議への参加度）50%、で評価します。						
教科書	授業中に指定します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義ⅡA／（東方キリスト教美術）						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを、「作品」を通じて読み解く。						
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、目には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。目に見えないものを解釈し、目に見えるかたちに翻訳という矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の文化を押し進めてきたと言える。わたしたちは「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教が育んできたものに想いを馳せよう。 前期は東方に始まるキリスト教世界の図像学的伝統に主眼を置くこととする。						
到達目標	東方に始まるキリスト教世界の図像学的伝統やその歴史の一端に触れることで、キリスト教美術のより深い理解を目指す。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 エジプトとキリスト教 第3回 ユダヤ教とキリスト教 第4回 ギリシャ・ローマ 第5回 ローマ帝国とキリスト教 第6回 象徴と暗示 第7回 初期キリスト教美術 第8回 十字架をめぐる 第9回 教会の建築 第10回 ビザンティン文化の展開 第11回 モザイクと写本美術 第12回 キリストのイメージ視覚 第13回 イコン崇拜の高揚 第14回 ローマ帝国の崩壊とイコノクラスム 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみること。 また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみること。 授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義IIB／（西方キリスト教美術）						
担当教員	上久保 真理						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教と美術との関わりを、「作品」を通じて読み解く。						
授業の概要	キリスト教と美術との結びつきは深い。同時に、目には見えない「神」という観念と、見ることを前提とする美術との隔たりは大きい。目に見えないものを解釈し、目に見えるかたちに翻訳するという矛盾に満ちた努力が、図像学的な体系を生み、キリスト教西欧の文化を押し進めてきたと言える。わたしたちは「作品」を読み解くことを通じて、キリスト教が育んできたものに想いを馳せよう。後期は西方キリスト教世界における美術のとらえ方の変化にスポットを当てる。						
到達目標	西方キリスト教美術の変容と多様化を概観し、その背景にあるキリスト教の解釈と美術との深い関わりについて考察する。						
授業計画	第1回 導入（授業についての注意、授業計画など） 第2回 ヨーロッパの形成とローマ帝国の崩壊 第3回 異民族とキリスト教 第4回 カロリング朝とオットー朝の美術 第5回 修道院・巡礼・十字軍 第6回 ロマネスク美術 第7回 都市の発達と大聖堂 第8回 ゴシック美術 第9回 ルネサンスの息吹 第10回 ローマ教皇庁とマニエリスム 第11回 宗教改革とプロテスタント 第12回 反宗教改革と異端の概念 第13回 プロテスタンティズムと美術の世俗化 第14回 映画の中のキリスト教 第15回 まとめと展望						
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマについて、各自が前もって調べてみることに。 また授業で興味を持った作品、作家についてさらに掘り下げて調べてみることに。 授業内で取り上げる作品や画家についての宿題レポートや発表準備。						
授業方法	講義形式。 スライド、DVDなどの使用。 個人もしくはグループ単位での発表、ディスカッションもあり。						
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に随時紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義ⅡⅡA／（日本ジャーナリズム史）						
担当教員	西川 純司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代社会におけるジャーナリズムとメディア						
授業の概要	インターネットを通じて誰もが報道・評論活動を行ないうる現在、ジャーナリズムやメディアに関する基本的な知識を知っておくことは重要です。この授業では、わたしたちが生活していくなかで最低限知っておくべき報道やメディアの現状および問題点について概括的に学びます。とりわけ、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、送り手と受け手の双方からそれらの現状を把握します。また、ニュースを読み解くための重要なキーワードを理解しながら、時事的な問題について考えます。						
到達目標	・ジャーナリズムやメディアについての基本的な知識が得られます。 ・身近なニュースから現在の報道やメディアのあり方について考え、議論する力が身につきます。						
授業計画	1 インTRODakション 2 ジャーナリズムとは何か 3 メディアのいま（1）：新聞社 4 メディアのいま（1）：新聞の利用 5 キーワードから読み解くニュース（1）：報道の自由 6 メディアのいま（2）：出版社 7 メディアのいま（2）：書籍・雑誌の利用 8 キーワードから読み解くニュース（2）：報道被害 9 メディアのいま（3）：放送局 10 メディアのいま（3）：テレビの利用 11 キーワードから読み解くニュース（3）：炎上 12 メディアのいま（4）：インターネット 13 メディアのいま（4）：インターネットの利用 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくとう理解が深まります。 また、日常的にニュースに触れつつ授業に臨んでほしいと思います。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。						
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	田村紀雄・林利隆・大井眞二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社、2004年 原寿雄、『ジャーナリズムの思想』、岩波新書、1997年						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義ⅡIB／（メディア社会の諸問題）						
担当教員	西川 純司						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	写真から考えるメディア社会						
授業の概要	報道写真やドキュメンタリー写真は社会の出来事を伝えてくれる一方で、ときに情報操作にも用いられます。また写真は、商品や観光地を魅力的にみせる一方で、過剰な演出を生み出すことがあります。さらに写真は、スマホによって手軽に撮影しネットで共有できる一方で、「晒され」たり編集・加工されたりもします。このように、写真は政治から経済、文化にいたるまで社会と深く結びついた重要なメディアですが、それゆえときに問題を引き起こすことがあります。この授業では、毎回テーマに沿った写真をもとに、写真というメディアがもつ特質やそれがもたらす問題について考えます。また、実際に写真を撮ることで、それらを実践的に理解していきます。						
到達目標	・写真を批判的に読み解くための方法が身につきます。 ・写真の撮影を通して、表現方法（メッセージを伝える力）を磨くことができます。						
授業計画	1 イン트로ダクション 2 写真とは何か 3 写真を分析する視点 4 報道と写真（1）：報道写真 5 報道と写真（2）：異文化の表象 6 消費と写真（1）：観光 7 消費と写真（2）：広告 8 中間発表会 9 文化と写真（1）：顔と表情 10 文化と写真（2）：写真加工 11 写真で表現する（1）：テーマを決める 12 写真で表現する（2）：被写体を決める 13 写真で表現する（3）：撮影技法を決める 14 制作課題発表会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後で教科書を読んでおくとう理解が深まります。また、日常的に写真に興味をもち好きになることも学習です。						
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。また、簡単な制作課題にも取り組んでもらいます。						
評価基準と評価方法	制作課題70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。 また、初回の授業で電子書籍を配布します。						
参考書	授業中に適宜紹介します。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義VA／（演劇と文芸）						
担当教員	枅井 智英						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇の歴史性とジャンル						
授業の概要	西洋演劇の概説を含め、ドラマとシアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代性、または上演技術の発展なども含めて紹介し、現在の演劇とも結びつけた考察も行う。						
到達目標	戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につける。						
授業計画	1. 文芸と演劇について 2. ルネサンス期：シェイクスピア① 『ハムレット』と現代映画 3. ルネサンス期：シェイクスピア② 『ヘンリー5世』と現代映画 4. ルネサンス期：シェイクスピア③ 『ロミオとジュリエット』と現代映画 5. ルネサンス期：シェイクスピア④ グローブ座とその演劇性 6. 中世：大道芸とその現在 ①海外のオーディション番組を見て 7. 中世：大道芸とその現在 ②チャップリンからローワン・アトキンソンへ 8. 近代：イブセン① イブセンについて 9. 近代：イブセン② 『人形の家』に見られるドアのテクニク 10. 近代：自然主義から表現主義までの流れ 11. 近代：象徴主義・不条理演劇 ① 不条理劇について 12. 近代：象徴主義・不条理演劇 ② メーテルリンクとベケットの作劇術 13. 現代：ブレヒト① 叙事演劇について 『コーカサスの白墨の輪』の紹介 14. 現代：ブレヒト② 現代劇への影響について 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	渡されたテキストの予習						
授業方法	主として講義、実際にテキストを読む場合もある。						
評価基準と評価方法	平常点・提出物（50％）、期末レポート（50％）						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸特殊講義VB／（演劇と文芸）						
担当教員	枅井 智英						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	演劇の歴史性とジャンル						
授業の概要	西洋と日本の現代演劇の概説を含め、ドラマ・シアターの諸要素を学ぶ。代表的な劇作家の作品を、その時代性、または上演技術の発展なども含めて紹介と考察を行う。						
到達目標	戯曲と上演の結びつきをよく理解し、演劇学研究に必要な基本的知識を身につける。						
授業計画	1. 日本の戦後新劇：① 戦前から戦後にかけての新劇について 2. 日本の戦後新劇：② 戦後新劇の大衆化と映画界との関係について 3. 日本の小劇場：寺山修二① 1960年代における日本の小劇場運動 4. 日本の小劇場：寺山修二② 初期の実践『毛皮のマリー』の考察 5. 日本の小劇場：寺山修二③ 後期の実践 観客と舞台との境界の消滅 6. 日本の小劇場：1980年代① つかこうへいの功績 7. 日本の小劇場：1980年代② バブル景気という背景と小劇場 8. 日本の小劇場：1980年代③ 野田秀樹と鴻上尚史などの実践 9. 英米の現代演劇① スタニスラフスキー・システムの実践と演技技術の発展 10. 英米の現代演劇② フェミニズム、ジェンダー、セクシャリティー 11. 英米の現代演劇③ ポスト・コロニアリズム 12. ブロードウェイ・ミュージカル① ミュージカルの定義とその歴史 13. ブロードウェイ・ミュージカル② 1980年代のスペクタクルなミュージカル 14. ブロードウェイ・ミュージカル③ 多様な音楽、ダンス様式を採用したミュージカル 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	渡されたテキストの予習						
授業方法	主として講義、実際にテキストを読む場合もある。						
評価基準と評価方法	平常点・提出物（50％）、期末レポート（50％）						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	参考文献は、テーマごとに講義期間中に適宜紹介する。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅠA						
担当教員	木下 昌輝						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	創作の基礎を身につける。						
授業の概要	小説を創作するために必要な物語の構成、描写、人物造形どの基礎を学びます。また読書会や課題の合評会などを行い、他者の作品をいかに読み込み批評するかの方法を学び、それを創作に活かします。						
到達目標	文芸作品を創作、鑑賞する上での基礎を習得し、作品を完成させます。						
授業計画	第01回 全体説明 自分の好きな小説について 第02回 原稿のルールについて、物語の構造とレシピの説明 A→Bの物語の変化を説明 第03回 前回講義課題の発表と講評 第04回 前回講義課題の発表と講評、プロットの作成 第05回 物語を筆写する 第06回 作成したプロットの発表 生徒朗読 第07回 作成したプロットの発表 講師講評 第08回 場面を創り方、プロットの冒頭を描く 第09回 タイトルのつけ方 第10回 アイデアの考え方 第11回 冒頭部分の発表と朗読 第12回 冒頭部分の発表と講評 第13回 夢をテーマにした課題発表 講師による評価 第14回 夢をテーマにした課題発表 学生による評価 第15回 夢をテーマにした課題発表 執筆者所感						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題にしたがって、400字～2000字の作品を制作し、期間内に提出、講義内で学生による発表と講師講評。						
授業方法	講義および課題提出。提出課題を生徒が朗読し、講師が講評します。						
評価基準と評価方法	授業態度や課題の〆切を守れたかなどの平常点が50点。課題の出来栄えが50点。平常点は授業態度の他に、課題の〆切の遵守も重視します。						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅠB						
担当教員	木下 昌輝						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	創作の基礎を身につける。						
授業の概要	小説を創作するために必要な物語の構成、描写、人物造形どの基礎を学びます。また読書会や課題の合評会などを行い、他者の作品をいかに読み込み批評するかの方法を学び、それを創作に活かします。						
到達目標	文芸作品を創作、鑑賞する上での基礎を習得し、作品を完成させます。						
授業計画	第01回 説明 第02回 A→Bの実例を上げる 第03回 冒頭描写の訓練 第04回 物語の冒頭改変 第05回 喜びの瞬間の発表 第06回 喜びの瞬間の講師講評 第07回 哀しみの表現の発表 第08回 哀しみの表現の講師講評 第09回 会話劇の発表 第10回 会話劇の講師好評 第11回 会話劇の学生所感 第12回 テーマ「嘘」の合評 第13回 テーマ「嘘」の学生講評 第14回 テーマ「嘘」の講師講評 第15回 テーマ「嘘」の執筆者所感						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題にしたがって、400字～2000字の作品を制作し、期間内に提出、講義内で学生による発表と講師講評。						
授業方法	講義および課題提出。提出課題を生徒が朗読し、講師が講評します。						
評価基準と評価方法	授業態度や課題の〆切を守れたかなどの平常点が50点。課題の出来栄えが50点。平常点は授業態度の他に、課題の〆切の遵守も重視します。						
教科書							
参考書	特になし。						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅡA						
担当教員	岩崎 正裕						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の音読研究						
授業の概要	戯曲という文芸作品を声に出して読みます。戯曲の中心は対話であり、その行間には様々な解釈が成り立ちます。現代・近代・古典の戯曲の中から抜粋し、登場人物の感情や行動を分析し、実際の劇表現を体験します。						
到達目標	台詞の分析、音読を通して現代における対話の可能性を探ります。それは自分自身のコミュニケーションを見直す機会ともなり、他者との意思疎通の向上にも役立ちます。						
授業計画	1. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 物語と構造を中心に 2. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 恋愛と登場人物について 3. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 現代における翻案の可能性 4. シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を読む 音読と実践 5. チェーホフ「かもめ」を読む 物語と構造を中心に 6. チェーホフ「かもめ」を読む 人物の関係性と恋愛模様 7. チェーホフ「かもめ」を読む 台詞の解釈と謎解き 8. チェーホフ「かもめ」を読む 音読と実践 9. 地域言語による戯曲の可能性Ⅰ 関西弁の台詞を読む 10. 地域言語による戯曲の可能性Ⅱ 関西弁と標準語の差異 Ⅰ 1. 現代詩を群読するⅠ 谷川俊太郎の詩を読む Ⅰ 2. 現代詩を群読するⅡ 「二十億光年の孤独」を群読 13. 日本の戯曲 日本の現代演劇史の中から 14. 日本の戯曲 現代演劇の領域と実践 15. 前期のまとめと発展						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に「ロミオとジュリエット」「かもめ」については一読しておいてください。その他のテキストについては随時配布します。						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点70% 欠席の場合は減点 参加意欲30%						
教科書	新訳 ロミオとジュリエット シェイクスピア 河合祥一郎訳角川文庫 ISBN978-4-04-210615-9 かもめ・ワーニャ伯父さん チェーホフ 神西清訳新潮文庫 ISBN978-4-10-206502-0						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅡB						
担当教員	岩崎 正裕						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸作品の音読研究						
授業の概要	日本の現代戯曲をテキストにリーディングを行います。リーディングとは、複数の相手とコミュニケーションをとりながら台詞を声に出して表現する行為です。何度も反復しながら作品をどのように立体化するかを模索します。						
到達目標	台詞を中心とする文学が戯曲です。作品が具体化するにつれて立体的な空間が現れます。相手との呼吸や距離を意識することによって、普段のコミュニケーションを見つめ直す機会となります。						
授業計画	1. リーディング候補作の提案 2. リーディング候補作の選定 3. 登場人物の関係性と背景（実践） 4. 立って読む、座って読む（立ち座りの実践） 5. 行動を起こす（音読と行為） 6. 相手との距離（近づく離れる） 7. 空間と身体（有効なポジションとは） 8. 感情の開放と抑制（生きた役を作る） 9. 場面を創造する（作品の可視化） 10. 戯曲に頼らずに演技する（台詞に戻るための即興練習） 11. 言葉と向き合う（即興から戯曲へ 新たなる発見） 12. 関係の構築Ⅰ（呼吸と距離の点検） 13. 関係の構築Ⅱ（呼吸と距離の点検 その発展） 14. リーディング発表（2班集体で発表） 15. 後期のまとめ（発表の合評会）						
授業外における学習（準備学習の内容）	台詞を暗誦することが目的ではありませんが、日々の間隙に作品を読むことが大切です。						
授業方法	実技実践を中心とします。						
評価基準と評価方法	平常点70% 欠席の場合は減点 参加意欲30%						
教科書	必要に応じて配布します。						
参考書	なし						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅢⅠA						
担当教員	稲垣 萌子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	同じものを見ても、人はそれぞれ異なるものを頭の中に思い描きます 日常の色や、形を捉えなおすことで自分自身による新しい色や形を表現しましょう						
授業の概要	美について考えた時、それらはどのようにして生まれるのだろうか。それを知るために、色彩や形態の構成を実践的に学ぶ。作品制作を通して、様々な視点から認識に広がりを持たせる。						
到達目標	課題の制作を通して、日常にある美しい色や形に対して鋭敏に反応する。表現活動をすることで自分自身の視点を自覚する。						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 色の引き出し 第3回 色の収集 第4回 生きている色に触れる 第5回 色の響き合い 第6回 色の表現 -オリジナルの色紙を作る- 第7回 想像を形にする 第8回 季節の花 第9回 抽象とデフォルメ 第10回 抽象とデフォルメ② 第11回 デペイズマン-構成について- 第12回 輪郭ってなんだろう 第13回 形の収集 第14回 色と形のコラージュ 第15回 合評・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の講義で必要な材料を集めること。また、授業で気になった事や、気がついたことなどを記述しておくこと						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	平常点30%、提出物40%、レポート30%						
教科書							
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅡIB						
担当教員	徳永 隆之						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術としての写真						
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察します。まず最初にピンホールカメラを製作し撮影をおこない、写真の原理について学びます。その後、デジタルカメラを使用し撮影に関する基本的な技術を習得します。また、大型カメラでの撮影も体験し、写真術に対する理解を深めます。実習と平行して、写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取る練習をします。						
到達目標	1. カメラの操作方法を学ぶ 2. 美術作品を深く理解する						
授業計画	第1回 授業ガイダンス 第2回 ピンホールカメラ製作 第3回 撮影実習①（ピンホールカメラにて撮影をおこなう） 第4回 撮影の基礎知識を学ぶ 第5回 撮影実習②（人物撮影） 第6回 画像調整ソフトの使用説明 第7回 blogの作成及びweb上への画像掲載 第8回 大型カメラの使用説明 第9回 撮影実習③（大型カメラ/ビュータイプを使用して撮影をおこなう） 第10回 撮影実習④（大型カメラ/フィールドタイプを使用して撮影をおこなう） 第11回 撮影実習⑤（デジタル一眼レフを使用して撮影をおこなう） 第12回 作品集鑑賞①（興味がある作家を探す） 第13回 作品集鑑賞②（レポート作成に必用な資料を探す） 第14回 撮影実習⑥（コンストラクティッドフォトについて考える） 第15回 画像編集及びレポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自で被写体を探し撮影をおこない、その写真はblogで発表します。						
授業方法	実習及び演習						
評価基準と評価方法	「課題20%レポート20%平常点60%（実習への参加度）」 実習が多い為、欠席をしたら課題をおこなうことができず評価が下がることへ繋がりますので、極力欠席しないよう心掛けて下さい。						
教科書	必用な際にプリントを配布します。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅣA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽との触れ合い（鍵盤楽器） ～チェンバロを弾いてみよう・アンサンブルをしてみよう～						
授業の概要	音楽とより深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得るだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を体験しましょう。						
到達目標	鍵盤楽器（チェンバロ）の演奏体験を通して名曲に触れ、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を学びます。学期末には学生主体による発表会を予定しています。						
授業計画	第1回 キャンパス内の鍵盤楽器見学 * 初回授業では、キャンパス内にあるパイプオルガン・ポジティブオルガン・グロッケン・チェンバロ・ピアノ等の鍵盤楽器を見学しながら、同じ鍵盤楽器でも様々な仕組みや音色があることを体験する。 第2回 チェンバロについての基礎知識 * 松蔭所蔵のイタリアンチェンバロを見学しながら、そのしくみや歴史を詳しく知る。バロック期の代表的なチェンバロのための作品を鑑賞する。 第3回 チェンバロを弾くための基本（1）タッチ 第4回 チェンバロを弾くための基本（2）アーティキュレーション * チェンバロの「鍵盤操作で弦をツメではじく」、という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。 第5回 「チェンバロができるまで」DVD鑑賞 * 日本のチェンバロビルダーが製作したDVDを鑑賞しながら、チェンバロの製造工程を知り、国による様式や音色の特徴を知る。 第6回 バロックの小曲を弾いてみよう（1）ドイツ 第7回 バロックの小曲を弾いてみよう（2）イタリア 第8回 バロックの小曲を弾いてみよう（3）フランス * バロック時代の簡単な小品の中から、各自が自分に合った曲を選び、実際にチェンバロを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。 第9回 アンサンブルをしてみよう（1）通奏低音とは？ 第10回 アンサンブルをしてみよう（2）和声付け 第11回 アンサンブルをしてみよう（3）旋律楽器と合わせてみる * チェンバロのできるごく簡単な通奏低音に挑戦し、クラス内で実際にアンサンブルを組み、合奏を体験する。 第12回 発表会の準備（1）ソロ 第13回 発表会の準備（2）アンサンブル 第14回 発表会の準備（3）リハーサル * 各人の進度に合わせて、個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組む。 また各自が選んだ楽曲に関して、その作曲家や成立の背景、また作曲家をはぐくんだ国や時代、文化環境等、調べられる限り調べ、クラスで発表する。 第15回 前期クラス内発表会 * 各自が前期中に取り組んだ曲の中で、チェンバロのソロ曲を1曲と、アンサンブル曲1曲を選び、演奏する。 人前で演奏することを経験し、また人の演奏を聴くことで、客観的に聴く耳、演奏を批評することを学ぶ。						
授業外における学習（準備学習の内容）	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。						
授業方法	講義・実習・発表						

評価基準と 評価方法	平常点（60％）、レポート（10％）および発表（30％）を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅣB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	音楽との触れ合い（鍵盤楽器） ～パイプオルガンを弾いてみよう～						
授業の概要	音楽と深く触れ合うには、実際に演奏してみることが一番の早道でしょう。この授業では、ただ音楽を鑑賞したり、知識を得たりするだけにとどまらず、学内にある鍵盤楽器の初歩的な演奏体験を通して、さらに深く音楽と関わっていくことを目指します。前期は主にチェンバロとアンサンブルを、後期は主にパイプオルガンを取り上げ、鍵盤楽器のしくみや歴史、代表的な楽曲などを学習しつつ、楽譜に書かれた音符を、鍵盤を通して実際に生きた音「音楽」にしていく課程を辿ることで広がる世界を知りましょう。						
到達目標	鍵盤楽器（パイプオルガン）の演奏体験を通して名曲に触れ、さらにはその曲を育んだ作曲家、国や時代、それらを取り巻く文化環境を学びます。学期末には学生主体による発表会を予定しています。						
授業計画	第1回 パイプオルガンについて基礎知識 * オルガンについて、代表的なオルガン曲のデモンストレーションを聴きながら、いろいろな音色を体験する。また実際にオルガン内部を見学し、パイプオルガンの基本的な構造や仕組み、またいろいろなパイプの種類の詳細を知る。 第2回 パイプオルガンを弾くための基本（1）身体の使い方 第3回 パイプオルガンを弾くための基本（2）笛を鳴らす 第4回 パイプオルガンを弾くための基本（3）タッチとアーティキュレーション 第5回 パイプオルガンを弾くための基本（4）息とフレージング * パイプオルガンの「鍵盤操作でパイプに風を送る」という独特の機構を理解し、実際に楽器に触れてみながら音を作っていく。 第6回 「パイプオルガン誕生」DVD鑑賞 * 一台のオルガンがどのようにして制作されるのか、ドキュメントフィルムから学ぶ。 第7回 いろいろな曲を弾いてみよう（1）クリスマスの讃美歌 第8回 いろいろな曲を弾いてみよう（2）オーケストラおよび合唱編曲 第9回 いろいろな曲を弾いてみよう（3）J.S. バッハ 第10回 いろいろな曲を弾いてみよう（4）J.S. バッハとその家族 * よく知られた作品の中から、各人の進度に合わせて個別に課題（楽曲）を決め、実際にパイプオルガンを用いて演奏しながら詳細を学ぶ。 第11回 発表会の準備（1）練習用オルガンでの取り組み 第12回 発表会の準備（2）練習用オルガンでの仕上げ 第13回 発表会の準備（3）大オルガンでの取り組み 第14回 発表会の準備（4）大オルガンでの仕上げ * 各自が後期中に取り組んだ曲の中で1曲を選び、人前で演奏できるよう準備する。 またただ弾くだけではなく、その楽曲に関する情報を可能な限り集め、クラスで紹介する。 発表した内容を簡潔にまとめ、発表会の折にはプログラムノートとする。 第15回 クラス内発表会と講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	学外で鍵盤楽器を練習できることが望ましい。						
授業方法	講義・実習・発表						
評価基準と評価方法	平常点（60%）、レポート（10%）および発表（30%）を総合的に評価。						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。						

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いⅣA						
担当教員	嶋村 のぞみ						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「歌曲・声楽曲」を学ぶ						
授業の概要	クラシック音楽における歌曲・声楽曲のさまざまな作品を、音楽史の流れとともに曲ごとの時代・国・言語・作曲家など背景・特色を知り、楽譜を見たり、歌ってみたりしながら学びます。 歌唱の実技では、声と身体のメカニズム、無理のない発声、外国語の歌の発音の基本、日本語をどのように美しく歌うか、を実践します。						
到達目標	発声・歌い方についてを学ぶとともに楽曲に多くふれることにより、時代を超えて再現され続けてきた芸術作品の素晴らしさを味わい、知見を広めるとともに、人の声の持つ能力・可能性の発見や歌うことへのより大きな楽しみへとつなげましょう。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 歌曲・声楽とは 発声・歌唱のはじめ 第2回 16世紀イングランドの伝承歌 英語の歌の発音 第3回 バロック時代～古典派時代のオペラの楽曲 イタリア歌曲で外国語の歌唱発語の基礎を学ぶ 第4回 ロマン派時代 ドイツ・リート 詩と物語と音楽との結びつき 第5回 ロマン派以降のオペラ楽曲 オペラのキャラクターと声質の分類 オペラ楽曲の楽しみ方 第6回 アメリカでの歌曲の発展 第7回 第6回までのまとめ 第8回 日本の歌曲①日本の唱歌になった世界の愛唱歌 日本語を美しくうたうには 第9回 日本の歌曲②日本の芸術歌曲 山田耕筰と詩人たち 第10回 日本の歌曲③ 日本の音階と日本の古謡・民謡 第11回 比較 西洋の歌声と日本の歌声 第12回 日本の歌曲④ 日本の叙情歌から流行歌へ 第13回 20世紀の音楽 映画音楽・ミュージカルの名曲 第14回 歌唱演習のまとめ 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：毎回の授業で次の授業で用いる曲、調べておくことを指示するので、楽譜の歌詞と解説を必ず読んでおくこと。 授業後学習：講義で学んだり実技で演習した曲だけでなく、その曲と同じ時代・作曲家などで関連する他の曲も調べてみたり鑑賞したりしてみて、クラシックの音楽作品をすすんで聴いてみましょう。 また、普段聴いている最近のJpopなどを聴くときも発声や曲のつくりはどうなっているのだろう、と学んだことをヒントにして気をつけながら聴いてみてください。						
授業方法	講義と演習 テーマの概説をすすめながら、音源や映像で作品の鑑賞をしたり、曲の楽譜を分析しながら実際に声に出して歌ってみたりします。 実技の演習は、講義テーマとは内容の異なる曲を用いることもあります。 欠席者には必ずレポートを課します。						
評価基準と評価方法	平常点50％ 積極性・授業態度を評価。遅刻・欠席は減点。 レポート30％ 試験20％ 歌唱実技の試験を行います。						
教科書	「女子音楽 カンターレ」音楽之友社 ISBN978-4-276-82608-3 他にプリントを配布することもあります。						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVB						
担当教員	石原 興子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アートセラピー（音楽）						
授業の概要	人は音楽や造形など様々な表現活動を行っています。それは人間の発達や変容にかかせない営みでもあります。日常の様々な音・音楽を意識することから、特に、医療・福祉・教育現場で行われている音楽療法という臨床的な分野を紹介し、様々な音・音楽の捉え方、芸術活動の営みに潜在している表現することの意味を探ることを目指します。 授業では、視聴覚教材を用いながら、また、楽器などを用いた実際の演習を通して、ディスカッションや講義を行います。						
到達目標	1. 音・音楽について柔軟な考え方や捉え方ができるようになる。 2. 表現活動の演習を通して、自己を知る。 3. 音楽療法について、基本的な知識と理解ができる。 4. 人が表現することの意味について考えていくことができる。						
授業計画	第1回目 イントロダクション 第2回目 アートセラピーとは 第3回目 音と「きく」こと 第4回目 音を通じたコミュニケーション 第5回目 音・音楽の要素 1 第6回目 音・音楽の要素 2 第7回目 即興音楽 第8回目 音と「つくる」こと 第9回目 言葉と音・音楽療法 第10回目 日本文化における音・音楽療法 第11回目 描画と音・音楽療法 第12回目 音楽療法の実際 1 第13回目 音楽療法の実際 2 第14回目 音楽療法の実際 3（講義・演習の後に小テストを行う場合がある） 第15回目 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業で紹介する文献や配布されたプリントの取り扱う箇所を読んでおくこと。 授業後学習：各回の授業内で感じたことや考えをリアクションペーパーにまとめる。課題を出すので、その発表準備をすること。						
授業方法	講義、演習、ディスカッション						
評価基準と評価方法	各回のリアクションペーパー・授業への参加度 40% 発表 30%、レポート・テスト等 30%						
教科書	適宜授業内でプリントを配布						
参考書	「音楽療法—ことばを超えた対話」レスリー・バント著、稲田雅美訳、ミネルヴァ書房、ISBN4-623-02625-6						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸との触れ合いVIB						
担当教員	佐藤 千晴						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジャーナリズムの文章に親しむ						
授業の概要	ジャーナリズムやノンフィクションに親しむために、新聞記事の読み方を学び、新書・文庫を計5冊を読破します。 授業では毎回、新聞記事を精読し、文庫・新書各1冊をゼミ形式で一緒に読みます。 授業外でも学生それぞれが自由に選んだ最低3冊を読み、レポートを書くことを課題とします。 書くことを重視し、上記レポートに加えて随時、課題を出します。						
到達目標	・ジャーナリズムやノンフィクションの文章を読み解けるようになる ・本を読むこと、文章を書くことを生活習慣として獲得する						
授業計画	第1回 ガイダンス／教科書「池上彰の新聞勉強術」の概説／講義「新書」とは何か 第2回 教科書「池上彰の新聞勉強術」を読む①著者を知る／授業外課題図書①を決める 第3回 教科書「池上彰の新聞勉強術」を読む② 要約してみる／共通図書Aを決める 第4回 教科書「池上彰の新聞勉強術」を読む③ 自分の「ポイント」を探す 第5回 教科書「池上彰の新聞勉強術」を読む④ 自分の「ポイント」を発表／授業外課題図書①のレポート提出 第6回 教科書「池上彰の新聞勉強術」を読む⑤ 参考文献へ広げる／授業外課題図書① プレゼンテーション ／授業外課題図書②を決める 第7回 教科書「池上彰の新聞勉強術」を読む⑥ 収穫を書き出す 第8回 共通図書Aを読む① 構成をつかむ／「池上彰の新聞勉強術」 第9回 共通図書Aを読む② ポイントをつかむ／授業外課題図書②のレポート提出 第10回 共通図書Aを読む③ 社会との関連を探す／授業外課題図書②プレゼンテーション／授業外課題図書③を決める 第11回 共通図書Aを読む④ 「読み方」を交換する 第12回 共通図書Aを読む⑤ 関連図書と比べる 第13回 共通図書Aを読む⑥ まとめ／授業外課題図書③のレポート提出 第14回 共通図書A レポート提出／授業外課題図書③プレゼンテーション 第15回 共通図書A振り返り／授業のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業外における学習 授業外で10月～12月の3カ月間に新書計3冊を読み、1冊ごとにレポートを提出、授業で発表（プレゼンテーション）します。何を読むかは学生それぞれが選び、教員と相談の上で決定します。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	テストはありませんが、授業への参加度（出席数・発言など）30%、共通図書2冊のレポート40%、授業外課題図書3冊のレポート30%の割合で採点します。						
教科書	「池上彰の新聞勉強術」（池上彰・著、文春文庫、600円＋税）						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文芸の基礎A						
担当教員	打田 素之						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文学と芸術の研究方法を学ぶ						
授業の概要	文学、映画、音楽の研究方法を紹介する。						
到達目標	文芸作品の分析方法を理解し、その適用を想定できるようになる。						
授業計画	1. 講義計画の説明 2. 印象批評と伝記的方法 3. 太宰治について 4. 「人間失格」 5. テーマ批評の方法 6. 夏目漱石について 7. 「吾輩は猫である」他 8. 漱石の作品と「横たわること」 9. 構造分析の方法 10. 20世紀前半の映画 11. 「いとこ同志」分析 12. ヌーヴェルバーグについて 13. 「太陽がいっぱい」の分析 14. 音楽分析の方法：2010年代Jポップの傾向 15. まとめとテスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	TVも含めて、あらゆる虚構作品＝フィクション（マンガ、アニメ、小説）に触れる。音楽は、J-POPはもちろんのこと、演歌からクラシックに至るまで、ジャンルを問わず聞くように努める。美術展には常に気を配り、有名展には必ず足を運ぶ。						
授業方法	講義を基本とするが、常に質疑応答を試みる。						
評価基準と評価方法	平常点（56％）＋テスト（44％）。3分の1以上の欠席で失格とする。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	文章表現／文章表現B						
担当教員	栴井 智英						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現の基礎を学ぶ。						
授業の概要	基本的な文章表現を身につけるとともに、総合文芸学科として必要なアカデミックな文章表現能力を実践的に学ぶ。						
到達目標	文章表現の基礎を習得し、表現することの楽しみを味わいながら文章表現能力を高める。						
授業計画	1. ガイダンス 2. 文章表現の基礎① 読点の役割とその意図 3. 文章表現の基礎② 語順の選択とその意図 4. 要約文作成（論説文）① 作成にあたって 5. 要約文作成（論説文）② 要約の取り組み 6. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）① 作成にあたって 7. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）② 要約の取り組み 8. 物語の要約（短編映画・ドラマ、短編小説など）③ 振り返り 9. 演習①：レポートの準備 題材について 10. 演習②：レポートの準備 情報収集 11. 演習③：レポートの準備 情報の整理 12. 演習④：レポートの作成 内容の構成 13. 演習⑤：レポートの作成 作成 14. 演習⑥：レポートの完成 振り返り 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	テキストの予習 レポートの作成						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	レポート（40％）、平常点（60％）						
教科書	必要に応じて資料やプリント配布する。						
参考書	石黒圭『よくわかる文章表現の技術Ⅰ 表現・表記編』明治書院、2009 西田みどり『文章表現のためのワークブック』知玄舎、2009						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	マスコミ文章編集						
担当教員	佐藤 千晴						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	4.0
授業のテーマ	・新聞製作を通して表現する力、調べる力、情報を判断する力を育てる ・ニュースに接触する習慣を身につける						
授業の概要	新聞の文章とレイアウトにはニュースを伝える知恵が詰まっています。この授業では講義と実習（新聞記事を書いた実習と、デスクトップパブリッシング（DTP）ソフト「パーソナル編集長」を使った新聞製作）でその知恵を具体的に学びます。 新聞、インターネットメディアなどを読み解く力、文章を書く力、新聞という形を活用して記事を組み合わせ、表現する力を育てます。 新聞やテレビのニュースに接触する習慣の獲得も目指します。						
到達目標	・新聞などメディアの情報を批判的に読み解けるようになる ・伝えたいことを新聞という形にデザインして表現する						
授業計画	第1回 オリエンテーション 新聞・メディアの活用法／シラバス解説 第2回 新聞の読み方を学ぶ① 新聞の構成／新聞記事を使った実習・ニュースの価値判断① 第3回 新聞の読み方を学ぶ② 見出しとレイアウト／実習・ニュースの価値判断② 第4回 新聞の読み方を学ぶ③ 記事の種類／新聞記事を使った実習・事実と解釈 第5回 新聞の読み方を学ぶ④ 「5W1H」を意識する／新聞記事を使った実習・縮約 第6回 記事を書いてみる① プレスリリースを素材に／新聞記事を使った実習・新聞整理ノートを作る① 基本 第7回 記事を書いてみる② コラムに挑戦① コラムの構造を分析する／新聞整理ノートを作る② 質問力 第8回 記事を書いてみる③ コラムに挑戦② 提出／新聞整理ノート③ 記事の背景を知る 第7回 「パーソナル編集長」実習① 基本を体験する／新聞整理ノート④ テーマを決めてスクラップ 第8回 「パーソナル編集長」実習② 写真の取り込み方・見出し／新聞整理ノート⑤ スクラップの発表 第10回 「パーソナル編集長」実習③ 紙面を組んでみる 第11回 課題新聞A製作① 記事を選び、写真素材を調達する 第12回 課題新聞A製作② レイアウト・見出しを決める 第13回 課題新聞A製作③ 記事・写真を組み付け、整える 第14回 課題新聞A製作④ 仕上げ・提出 第15回 課題新聞A製作⑤ 振り返り 第16回 夏休みの課題提出／課題新聞Aの振り返り 第17回 課題新聞B製作① ガイダンス 第18回 課題新聞B製作② テーマを決め、記事情報・写真素材を集める／論説を書く① 論説とは？ 第19回 課題新聞B製作③ 記事を作成する・レイアウトを考える／論説を書く② テーマ決定・データ集め 第20回 課題新聞B製作④ レイアウト／論説を書く③ 構成を決める 第21回 課題新聞B製作⑤ 仕上げ・提出／論説を書く④ 要旨から文章へ 第22回 課題新聞B振り返り／論説を書く⑤ 提出 第23回 課題新聞Cガイダンス／論説を書く⑥ 振り返り 第24回 課題新聞C製作① 企画案を作る 第25回 課題新聞C製作② 構成を決める／取材案をつくる 第24回 課題新聞C製作③ 記事・写真の準備 第25回 課題新聞C製作④ 記事の点検 第26回 課題新聞C製作⑤ レイアウト開始 第27回 課題新聞C製作⑥ レイアウト仕上げと校閲 第28回 課題新聞C製作⑦ 仕上げ・提出 第29回 課題新聞C製作⑧ 振り返り 第30回 1年間のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎日、新聞やテレビ、インターネットでニュースにふれてください。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	課題新聞A～C=40% コラム・論説などその他提出物=30% 出席・授業への積極的な参加度=30%の配点で採点します。						

教科書	「新聞力 できる人はこう読んでいる」 齋藤孝・著、ちくまプリマー新書 800円＋税
参考書	「パソコン編集入門（「パーソナル編集長バージョン11」対応版）」 日本機関紙協会大阪府本部・著、機関紙出版・刊 2000円＋税

科目区分	総合文芸学科専門教育科目						
科目名	メディア・広報の基礎						
担当教員	西川 純司						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	メディア・コミュニケーション入門						
授業の概要	本講義では、コミュニケーション論の基本を学ぶことを目的とします。個人間のコミュニケーションから、コミュニケーションの伝達様相と関係性、その影響力、さらには社会の水準におけるコミュニケーションについてみていきます。すなわち、個人というミクロレベルから社会というマクロレベルへと話を進めていくこととなります。こうした知識は、今後メディアや広告・広報などを学んでいく上で基礎をなすものとして位置づけられます。						
到達目標	・コミュニケーション論についての基本的な知識を習得できます。 ・メディア・コミュニケーションを分析するためのさまざまな視角を知ることができます。						
授業計画	1 イントロダクション 2 コミュニケーションとは何か 3 ことばとコミュニケーション 4 文字のコミュニケーション 5 映像のコミュニケーション 6 社会関係とコミュニケーション 7 説得 8 うわさ 9 流行と普及 10 マーケティング・コミュニケーション 11 コーポレート・コミュニケーション 12 情報社会とコミュニケーション 13 災害とコミュニケーション 14 レポート検討会 15 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくとう理解が深まります。						
授業方法	講義を中心とします。						
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点（授業での発言や参加度）30%、で評価します。						
教科書	毎回プリントを配布します。						
参考書	辻大介・是永論・関谷直也、『コミュニケーション論をつかむ』、有斐閣、2014年						